

# 財団法人暹羅協會々報

第三號

昭和十一年六月

昭和十一年六月

財團 暹羅協會 報 第三號

財團 暹羅協會



法人 暹羅協會々報 第三號 目次

暹羅字紙其他の論調報告

- 昭和十一年一月三十日暹字紙「シークルング」所載「貿易均衡協定の必要」……………一
- 昭和十一年四月廿五日英字紙「バンコックタイムス」所載「極東は平和なり」……………一
- 最近の日暹關係に關する新嘉坡新聞紙の論調……………三
- 「ストレーツタイムス」紙……………三
- 「マレトトリビューン」紙……………三
- 獨、佛新聞紙上に載せられたる暹羅「クラ」運河開鑿に關する記事……………一
- 一、獨紙「ベルリナー、ベルゼン、ツァイング」紙……………六
- 二、獨紙「ベルリナー、ターゲブラット」……………七
- 三、佛紙「エール スーヅエル」(四月二十三日)……………九
- 四、英紙「マンチエスター・ガーデアン」……………九

資料欄

○佛曆二四七七年度暹羅國貿易概況……………	三
○臺灣博覽會に招待せられたる暹羅人の臺灣視察談……………	四九
○暹羅國在留邦人の狀況……………	六一
雜報欄	

○暹羅國務院改造……………	六七
○暹羅國大藏省顧問の任命……………	七一
○暹羅國の官營製紙工場設立……………	七二
○暹羅國外債借替……………	七五
○英國の對暹文化事業……………	七六
○暹羅國政府油槽船の進水式……………	七六
○暹羅國內務顧問「サコール」殿下の來朝……………	七七
○暹羅國防省經理局長「モムサニッタオングセーニー」大佐一行來朝……………	七七
○暹羅協會主催訪暹經濟使節團送別晚餐會……………	七八
○暹羅に於ける我が經濟使節團……………	八三

○神戸日暹協會の設立……………	九二
○暹羅國政府派遣留學生の着京……………	九三
○名古屋日暹協會招致の暹羅學生來名……………	九四
○國際藝術禮讚會主催の「日暹親善の集ひ」……………	九五
○協會理事會其他……………	九六
○會員訃報……………	九六
○會員其他の動靜……………	九六
○本協會新入會員……………	九七

暹羅字紙其他の論調報告

○昭和十一年一月三十日暹字紙「シークルング」所載「貿易  
均衡協定の必要」

本年一月初一週間に十六國以上の外國より暹國に輸入したる商品の價額は百四十萬銖にして内日本品は三十萬銖に上り全輸入額の四分の一に當つて居るが、若し日本の圓價に變動がなければ日本品は益々増加するであらう。然るに其一週間に暹國より日本に輸出したる米の價格は僅に五千銖で他に輸出物なく結局暹羅の貨幣は一週間に三十萬銖日本に流出することとなり之を年額にすれば驚くべき巨額に上ることとなる故に政府及國民は宜く日本に輸出すべき物の産額を増加するの途を考究す可きである。假令均等ならざるも其の差を少なく出來得れば尙ほ足れりである。此問題は政府間の交渉に附すれば日本政府は日暹の親交上喜んで暹羅政府の要求を容ることゝ確信する云々、

○昭和十一年四月廿五日英字紙「バンコックタイムズ」所載  
「極東は平和なり」

昨日極東より二つの佳い通信が入った。

東京政府はソビエツト日本間の當分永久的の國境問題の解決も遂に目安が附いたと解釋して居る。ロシアは滿洲國境に於て近代的裝備を有する龐大な軍隊を擁して居るが何處が精確に國境線であるかは其大部分に互つて何等の協定がない。兩國とも開戦の身構へして居るのは相當以前からのことであるが、最近に至り、日本は引續き起りつゝあつた越境事件に對し聲を大にして抗議はし乍ら、時局多端の折柄斯る重大ならざる事により、少くも今日に於ては戦争開始の意志は有せぬ旨が明白にせられた。モスコウ政府も亦、率直に同様の意志を表明した。即ち最近の國境に於けるソビエツト側の或る種の行動は多少挑發的であつたかもしれない。然し乍ら政府はユレネヴ大使を通じて、同國も亦、現在、斯る戦争の開始を希望せぬ事を明白にした。

今一つの通信は上海より來つた。それはサー・フレデリック・レイス・ロースに依つて爲された聲明で、最終の發言の如く看做される。事實吾々は同氏は既に出立されて了つたものと思つて居た。何れにしても、英政府の經濟顧問長たる同氏は支那の事局研究に充分なる時を持たれた筈であり而して今や同氏は支那の新幣制に自信を得たと語つた。同氏は曰く貨幣制度の改革は支那の經濟組織に彈力性を附與し爲替の安定は容易に維持せられ通商の均衡は支那に有利となるであらうと信する、外債に對しては、支那の負擔は過重ならざるが故にモラトリアムを要求する理由はない。支那は資本を必要とするを以て、自國の信用を改善すべく最善の努力をせねばならない。而して支那の經濟發展に於て、英米兩國の協力と共に日本との協力は殊に望しい所である。と、これが昨日久電の通信で誠に穩健な忠言と云はねばならない。確かに日本は支那の經濟發展に協力する事を希ふであらうが、然し、前記英米二強國と相並び手を携へて、それを爲す事は求めないかも知れない。又、日本及支那が同等なる條件で且つ眞に友好的な方法に依つて一緒に働くこと云ふ事

は容易な事ではない。日本に宣戦を布告し、そしてその大勢力を一掃し去るべしとの示唆が、過日廣東の安全地帯から來た。率直に云へば、兩國の難局打開の捷徑として、實力を行使することが双方に取つて自然に考へられるかもしれない。近來の如き經濟的國家主義の時代に於ては、何人も日本が産業原料品を獲得し、公正なる條件の下に市場を開拓せんとする努力に對しての同情を吝むものではないが然し同時に世界の強國は各此の世界は不完全なものであり従つて時としては改善を以て暫らく満足せねばならないことを學ばねばならぬ。確かに經濟戰に於ては日本は多くの大なる難關を突破して來た。併し今一步日本が忍耐と努力とを拂ふならば、日本は支那の同情と好意とを勝ち得ることを吾人は疑はぬ繁榮は常に戰勝に依つて勝ち得らるゝよりもかゝる道程によつて、より確實に來るものである。

### ○最近の日暹關係に關する新嘉坡新聞紙の論調

最近の日暹兩國の接觸に付新嘉坡英字新聞は兎角の批評を下して居るが暹羅前内務參議「ルアンブラデット」氏(現外務參議)が先般日本及歐米旅行を終へて歸暹したるに際し二月十一日の「ストレーツタイムス」紙及同十三日の「マレトリビューン」紙は孰れも大要左の様に論じて居る。

二月十一日「ストレーツタイムス」紙

最近の暹羅政情を見るに若し現總理「バホン」が病弱無能の故を以て退かしめらるゝ場合、之が後繼者の何人なるかは豫測を許さざるも現在「ルアン、ブラデット」が政界に多大の勢力を保持し居ることは疑ひなき事實にして最近の情報に據れば彼が暹羅の内政及外政に付重要な役割を演ずべきは明かである。

「ルアン、ブラデット」の外遊中、最も注目すべきは東京訪問であつて、暹羅が過去に於て兩國の開発上多大の努力

を惜まざりし英國竝に歐洲列強を離れ、之に代て日本の援助を期待し居ることは殆ど疑がない、尤も最近暹羅政府が英人財政顧問を任命せる等の事實より見れば事態の推移は斯く速かなるものではあるまい、然し松島大使の報告に據れば暹羅に於ては英國竝に佛國の羈絆を脱し日本の援助に依り完全の獨立國たらんとする意嚮強烈なるものありとのことであるが、最近暹羅政府内に日本人顧問を傭聘せる事實及び暹羅の對日親善使節の派遣、又日本側に於ても日暹貿易の「バランス」を維持せん爲に暹羅よりの輸入増加の可能性に付調査せんとしつゝあること等の事實は將に右報告を裏書せるものと謂へる。

過去に於ける日暹の親善關係は例へば農業技術の輸入に於けるが如く、主として暹羅側よりされたものであつたが最近に於ては寧ろ日本側より働き掛けつゝある。斯くの如き事態は別に何等非難すべき事柄では無きも、吾人の最も遺憾とする處は日本が暹羅より金銭以外に何等かの代償を受くるに非ざれば暹羅に對して助言を與へ、又は機械、軍艦等の賣込をせまいことである。日本の暹羅に於ける政治的勢力の増大することは日本の大亞細亞主義達成に便宜なるべく、又他日暹羅領土内に飛行場及海軍根據地を保有するに與て効果あるであらう。

暹羅側に於て斯の如き強烈なる日本依存の傾向あるにも不拘從來日本は暹羅に對し殆んど資本を投下し居らず、之に反し、歐洲諸國に於ては既に各種の事業を殆んど全部其手に收めて居る即ち英國は鐵道、森林、錫及亜鉛鑛業に、佛國は金鑛に、「ベルギー」及和蘭は電氣事業に投資して居り獨逸亦、多額の投資關係あり、支那は主として商業を其の手に握り居るが之等の事實は日本が暹羅を有效なる勢力範圍と爲す上に強力なる障礙を示すものである、云々。

#### 二月十三日「マレートリビュン」紙

「ルアン、ブラヂット」は一般に不可解なる人物なりと評せられ居るが右は恐らく彼が新聞記者との會見等を努めて

避けんとしつゝある爲ならんも斯る傾向は一般政治家の當にして何等異とするに足らぬ、或は彼が今次の外遊中、歐米の諸名士、就中「ムソリーニ」及廣田外相と會見せる事實が斯る印象を一般に與へしめたのかも知れぬ。

今回の外遊に於て彼の最も顯著なる功績として擧ぐべきは暹羅六分利公債を四分利に借換へたることで、此の事實に依り、英國が暹羅の將來に對し多大の信頼をつなぎ從來の兩國の親善關係に些かの變更を與ふることなきを觀取出來る、又最も暹羅事情に精通せる「クロスビー」氏を駐暹英國公使の地位に置くことは暹羅に於ける英國權益の保護に申分がない。

某方面に於ては暹羅の内政に對し、多分に危惧の念を抱き居るが目下の處政情は安定し居り、或は多少閣員の更迭等がありとするも右は現行憲法に基きて行はるべく、且「パホン」が總理の地位を離るゝが如きことは萬有り得ないであらう。

暹羅も亦他の各國と同様世界的不況の影響を受け來れるも、右は當局の如何とも爲し能はざる處で、若し舊政權の支配下に在りたりとするも結果は同様であらう。

暹羅人は自家の政治を自己の手に收めんとする以外に何等の希望を有せない、多數の外國顧問を漸次退けて政治の實際を自己の手に收めんとすることは自由、獨立を誇りとする國民として當然のことである。

### ○獨、佛新聞紙上に載せられたる暹羅「クラ」運河開鑿に關する記事

暹羅「クラ」運河開鑿云々は事實上全然根據なき風説として吾人は一笑に附して居るも西洋新聞紙の中には左も真しやかに傳へ故意か輕卒か平地に波を起さんとするものあるやにも見受けらるゝ、左に其代表的のもの一、二を譯報することとした。

右の内最も露骨に捏造的のもの獨紙ベルリナー、ベルゼン、ツアイングがある。

### 一、獨紙「ベルリナー、ベルゼン、ツアイング」紙

「クラ」運河開鑿に關する日暹契約は一九三四年五月末暹羅政府と日本企業家間に締結せられ右に依り「シヤム」内務大臣「ザコル・ホラヴァーン」公は同運河開鑿工事の全權を同省土木局長「ドクトル、ルアング、ブラデイツト、マヌダム」(巴里「ソルボンヌ」大學出身にして四年前暹羅民主黨を創設したり)に委任したるが同局長室には現在多數の日本技師及政治家が出入して居る又最近盤谷及附近の「ベチャブリ」町に日本技師の指導の下に工場設立せられ特殊の機械及器具を製造しつゝある外「マラツカ」半島東海岸に「バンコツク」―「ラトブリ」間及「ベチャブリ」―「ベナツク」間鐵道線と並行し日本技師の監督下に「アオ、バンドン」灣に至る自動車道路工事と共に同灣には多數の日本淺海船に依り「クラ」河淺海行はれ又「コーラ」島北方の山腹に於ては同く日本技師の指導下に爆發工事進行中にて此等は何れも「クラ」運河開鑿と相關聯するものにして右従事員は現在日本技術家數百名「シヤム」労働者八萬工費一千萬「ギルダ」を計上し居り運河開鑿は一九四〇年に完成の筈なる處之に依り現在「マレイ」半島南端新嘉坡を迂回する歐亞乃至印度亞細亞航路は同運河を通じ著しく短縮するの結果當に通商航海上に於て新嘉坡の價值減少するのみならず軍事上に於ける新嘉坡の價值失はれ一大脅威を來すべく此點特に注意に値す云々

### 二、獨紙「ベルリナー、ターゲブラット」

暹羅が英佛兩國に其領土を割讓したる以來其存在は兩大國の植民地間に在りて極めて微少なる價值を有したるに過ぎずして當時英佛は何れも他日日本の覇權が此地に及ばむことは夢想し得ざりし所なりしに豈計らんや日本は右英佛の緩衝地帯に對し外國勢力の妨害なきに乘じ最近短期間に此地に平和的進出を試み將に亞細亞爭覇戰に對する重要な軍事的位置を占めむとして居る

暹羅有力階級に於ては右英佛兩國の壓迫に苦みたる結果最近急激に日本の勢力を歡迎するに至つた。蓋し暹羅は曩に英佛に領土を割讓したる以外國內の鐵道、鑛山、森林事業は英國の監督下に立ち又南暹羅金鑛は佛國人の手に歸し其他の産業亦白耳義人及丁抹人に依り經營せられ居るのみならず、國內には五十萬餘の支那人ありて暹羅の商業は彼等の手中に在るの如くにて一千三百萬の人口を有する暹羅が經濟上に於て上記の如く全く外國の勢力下に在るは異様の感あると謂はねばならない日本が暹羅人の歡心を買ひ得たのは先づ日本の廉價なる商品に依り暹羅人が其僅少なる收入の爲從來思ひ及ばざりし諸種の便益を享受するを得るに至つたに始まる。右の結果として一九三五年に於ける暹羅に於ける日本品の輸入額は四千萬圓に達し之に反し暹羅産品の對日輸出額は八十萬圓に過ぎざる爲其對價として日本は暹羅に於て棉花栽培の計畫を樹て以て其纖維工業の需要する無限の棉花を同國に求めむとした。米國の某棉花專家の調査に依れば暹羅は棉花栽培上「テヤサス」州と同様の有利なる條件を備へ居り而も暹羅全國の面積の少も三分の一は右棉花栽培に供せられ得べしとのことである而して日本は今後六年内に暹羅は日本の指導の下に價額二億圓の棉花を日本に輸出すべく其結果米國の對日棉花輸出は減少するに至るであらう。棉花の主要需要國たる日本は米國の生絲需要減少に依り

對米輸入超過關係を改善し得るに至るであらう。

暹羅をして日本の需要する棉花供給國として發展せしめ得る可能性は同時に日本をして軍事上の目的の爲最も重要にして且親好ある暹羅に於て急速に軍備を整へしむるに至るべく客年暹羅より將校十五名より成る視察團渡日し軍艦二隻の建造を日本に依託したが其後間もなく九月に至り暹羅の參謀總長は日本を訪問した。又最近數月間に於て暹羅の國會議員十六名及海軍將校の一隊渡日し親好を重ねた。

盤谷市民の對日親善感情は客年三月日英佛三國の軍艦が交互に同港を訪問した際に於て露骨に表示せられた。即ち日本の練習艦の盤谷訪問の事明となるや英佛の東洋艦隊は急遽日本に先立たんとし先づ佛國軍艦の入港を見たが其際歡迎の爲暹羅側は陸軍飛行機十臺を飛ばし次に英國軍艦の入港に際しては二十臺の飛行機を飛ばしたるのみであつたが日本軍艦の現はるゝや無慮百臺以上の飛行機を繰出したるが如き其歡待振は以て如何に暹羅國民が親日に傾けるかを知ることが出来る。

在東京暹羅公使「ブラ、ミトラカーム、ラクシャ」氏が最近「ノースチャイナ、デリー、ニユース」の特派員との會見談に於て日本が暹羅米の輸入を制限し居るに拘らず何故に暹羅は日本との親善に重きを置けるやとの間に對し同公使は日本は國內農業の恐慌に依り外米輸入の制限を餘儀なくせられて居るが將來右改善の見込充分なるを確信して居る從來暹羅は少額の棉花木材及鑛物を輸出したに過ぎざるも今や暹羅の資源開發上多大の努力を拂ひ居り特に棉花製作に於て顯著である。暹羅は獨立國なるが故に諸外國の希望に影響せらるゝの要なく日本は暹羅に於て此等諸外國に代つて其商權を擴張して居る。日本が良質の商品を廉價に供給し得る以上、吾人は日本より輸入するを憚らないと答へた。云々

前記の暹羅外交官が對極東英國輿論に對し重要な機關たる新聞代表者に對し爲したる自信ある口調に徴するも亞細亞の小民族が日本の保護の下に泰西の植民國に對し漸次得意然たる態度を採りつゝあるを知るに足るであらう。

### 三、佛紙「エールヌーヴェル」(四月二十三日)

英紙は日暹親善が太平洋に於ける情勢の進展に對し與ふべき政治的影響を懸念する。吾人にとつても我極東の領土に接近する關係上特殊の關心を惹起せざるを得ない暹羅は一八九六年の英佛協定に依り脅かされたるもよく其の獨立を保つて來たが日本に近づくことに利益を感じ數年來日本に眼を轉じた。

暹羅は印度、印度支那、蘭領印度、新嘉坡に達する要衝である。その暹羅に於ける日本の勢力の扶植竝に就中「マラツカ」半島に於ける日本人の活動に付不安に驅らるゝは英のみに非ず蘭紙も海牙にて行はれたる *Soerabaja* 中將の「蘭印の太平洋に於ける政治的軍事的地位」に關する講演に重要性を認められた。彼は曰く「日英の紛争に於て日本は新嘉坡に隣する諸島を掌中に收むることにより先づ有利なる地位に立つこの故に我政府は一九二七年蘭印中立の原則を定め一九三〇年その尊重を確保する必要なる手段を講じたり」と日本の前進を抑制せんがための新嘉坡根據地の強化は日暹接近により水泡に歸した。暹羅に於ける日本技師の運河開鑿計畫により新嘉坡の價値は大に減するであらう云々。

### 四、英紙「マンチエスター・ガーディアン」

#### クラ運河

日暹奸策の風評

近來國際切抜新聞は、クラ地峽横斷運河の開鑿計畫に關し、數多の記事をシンガポールへ送附しつつある。クラ地峽とは暹羅の南端にして馬來半島と接続する最狭の地點である。獨逸、チツコスロヴァキア、中央歐羅巴の各新聞は同問題を詳述爲さしむべく極東に派遣中の通信員からの記事を登載した。彼等は曰く、其計畫は既に運河の豫定通路を調査した測量師に依つて準備せられた、と。又、佛國新聞の「ル・ミロワール・ド・モンド」紙は、(それは廣く佛領印度支那地方の新聞に引用されたものであるが)クラ運河として豫選された線路二つあり、一方は他方よりも稍長いが運河竣工の曉には英領を全然通過する事なくしてピルマの南端に達し得るものである事を報じて居る。

最も印象的な報導は「デイリイ・ウァーカー」紙(ロンドン)並びに歐羅巴の左黨の機關新聞に現れたものである。同紙は運河開鑿の工事は既に始まつて居ると述べ、數千人の苦力が「東洋に於ける海軍戰術を變化せしむるであらうところの溝を掘りつつあり」と!

盤谷及びシンガポールに在つても、又、クラ運河を繞る風評は一般に流布し、甚しきはシンガポールから程遠からぬ歐人クラブで、米國世界漫遊船の一旅客が自分は同問題に就て暹羅政府から顧問として招聘せられた土木技師だと云つて自慢話をしたと云ふ話もある。

#### 眞面目に考へられては居らず

大方の風評なるものは殆ど検討に耐えないものである。同運河の開鑿工事は未だ起工されて居らず、暹羅政府はそれに對し如何なる考慮も拂つて居らないと云ふ事さへ斷言出来るのである。先づ第一にクラ地峽の比較的平坦な部分を通

してさへ此處へ運河開鑿が果して實際上可能なる土木事業であるか否や問題であるのに、況や開鑿に最も望ましい即ち最狭少な地點と雖も兩海岸の間の距離は十哩以上もあり、而も地峽全體が山脈に依て縱走せられ、海岸から直ちに山嶺まで海拔千呎乃至二千呎の絶壁を形成して居るに於てをや。

假りに、同運河の開鑿が、近代的土木工事の裝備に依つて可能であるとしても、其費用は莫大で恐らく禁止的であるであらう。同計畫は今日迄未だ曾て眞剣に考へられたことが無いから従つて實際精確な工事費が幾何なるやは未だ曾て計上せられて居ない。併し同地方を識つて居る土木技師等の言ふところに依ると大凡六百萬磅位だと稱して居る。

處で何人がこの金を提供するかと云ふ事は曾て明示された事がない。暹羅政府が斯様な膨大な歳出を取てするに餘りに貧しい事は確かである。而して常に慣用的に聞かされるのは、日本の工業家と造船業者とが自國の政府を慫慂してその金を支出せしめるだらうと云ふ事である。これも又、實にあり得べくも無ささうな事で、かゝる莫大な投資に對し如何なる報酬が期待出来るかと云ふに、それは單にクラ運河會社が竣工の曉毎年其經營費を支拂し得れば餘程の仕合せと云ふ位が關の山で株主の配當は多年の間空頼みに終るべきは確かな所である。

船舶が同運河を利用すれば、極東歐洲間の航路は一日乃至それ以上短縮せらるゝであらうが、それに依る利益は現在自然にシンガポールへ運ばれ同地で處置さるゝ積荷を失ふ事で完全に差引かれる。同港は東印度諸島並に遠隔な國々に對し自然的貨物集散地だからである。貨物船の或るものは今日未だにスエズ運河税を支拂はんより喜望峰を廻つて航行して居る。して見れば、クラ運河を利用せんと欲する船舶が誠に少數なるべきは確かだ。

支那海の戰略に於ける新たな一因子たる見地よりすれば、クラ地峽横斷運河はシンガポールに對し重大なる意義を有するは言を待たない。日本の運河問題に關する關心は運河の支配權が有事の時日本海軍に非常なる助力となるが爲な

りと論ずるものがあり、又シンガポール要塞を以て攻撃的根據地なりと主張する日本の海軍通は現在のシンガポールを迂回する航路を棄て、運河に依る航路の短縮を見て喜ぶに相違ないであらうが、同運河計畫を眞剣にとつて居る人々は空中よりの爆撃に依て同運河は直ちに破壊せられ得る事を指摘する。殊に英國の飛行機根據地が極めて接近したるシンガポールに在るから猶更容易である。

以上の如きに拘らず、東洋に在る大多數の國民にとり、クラ運河なるものは刻々に明滅するオバケであり一笑に附さるゝ事を頑固に拒むものである。が、最近に於ける同問題に關する最も權威ある聲明は、佛領印度支那總督エム・ピエール・パーチ閣下に依つて爲されたものである。同氏は歸國の途次シンガポールに於て記者團を引見し、クラ運河なるものは決して建設を見まいと信する旨を話した。同氏の確信するところに依れば最近流布されて居るクラ運河の噂の出現に關しては佛蘭西のみならず英國政府も亦何等重大なる關心を有せざるものである、と。

數多の風評の根元は疑ひもなく最近に於ける日暹兩國間の貿易親善に根ざして居る。未だに若き民主主義を経験しつゝある盤谷の爲政者達は、東洋に着眼し彼等の傳統的多くの制度を日本に習つて改めつゝある。而して過去の二年此二國間の貿易は著しく進展した。けれども、現今の日暹の親善は單に貿易關係に土豪を置くもので、未だ今日の所日本がクラ地峽横斷運河の建設權を許與せらるゝに必要なる程度に於ける日暹間政治的同盟の危険は更に無いのである。

x  
x  
x  
x  
x

資料欄

佛曆二四七七年(自一九三四年四月至一九三五年三月) 暹羅國貿易概況

- 一、輸出入概況
- 二、輸入
- 三、輸出
- 四、日暹貿易概況
- 五、暹羅と主要外國との貿易
- 六、船舶

九ノ子ノ片  
十ノ子ノ片  
100

一、輸出入概況

佛曆二四七七年(自一九三四年四月至一九三五年三月) 以降本年と稱す) 暹羅全國の外國貿易は輸入に於て一〇一、七二六、七二一銖、輸出に於ては一七二、五九四、八七〇銖を示し、前年中(佛曆二四七六年自一九三三年四月以下昨年と謂ふ)の輸出入額に比較すれば輸入は八、七六三、三四〇銖即ち九、四%の増加を又輸出は二八、五一五、八五六銖一九、八%の増加を夫々示して居る。

而して當國の貿易は大部分盤谷港を通過し他の諸港を通過するもの、總額は總貿易額に對し輸入は漸く一割強又輸出は約二割五分に達するに過ぎない、即ち左表に依て此の趨勢が示される（單位銖）

	佛曆 二四七六年	佛曆 二四七七年
盤谷港輸入額	八二、八三六、四三四	八九、九九三、二四一
其他諸港輸入額	一〇、一二六、九四七	一一、七三三、四八〇
合計	九二、九六三、三八一	一〇一、七二六、七二一

盤谷港輸出額 一〇九、一一八、六九一  
 其他諸港輸出額 三四、九六〇、三二三  
 合計 一四四、〇七九、〇一四

最近十ヶ年に於ける當國外國貿易は次の表の示す如く常に出超を示し殊に本年度の出超額は異常の増加となつて居る

年 度	輸 入 額		輸 出 額		出 超 額	輸入に對する輸出の割合%
	政府輸入	總輸入	國産品輸出	再輸出		
二四六八	八、六一一	一八一、三七七	二三四、七五五	九、九六七	六三、三五四	一三七・〇
二四六九	一〇、六五四	一九六、五二〇	二三〇、四四九	八、八一七	四二、七五六	一二二・八
二四七〇	七、七一七	二〇一、〇八一	二六九、二〇五	七、〇六四	七五、一八八	一三八・八
二四七一	九、八三七	一八九、七九〇	二四六、四六四	六、〇一一	六二、六八五	一三四・一

二四七二	一一、四四四	二〇六、七一一	二二二、三六五	七、四〇八	一三、〇六〇	一〇六・六
二四七三	七、二二四	一五五、〇〇九	一五六、九五五	四、五六四	六、五一〇	一〇四・三
二四七四	七、〇四四	九九、九〇九	一三一、四九六	二、七一	三四、二九八	一三五・三
二四七五	一、六六〇	八九、四九七	一〇五、四四七	二、〇七六	六三、〇二五	一七二・一
二四七六	四、六六二	九二、九六三	一四二、〇七五	二、〇〇四	五一、一一六	一五六・二
二四七七	一、二五六	一〇一、七二七	一六九、七一	二、八八四	七〇、八六八	一七一・七

右表の輸入に對する輸出の割合は輸入總額より再輸出額を控除したるものと國産品の輸出額との比率であるが當國の再輸出品は凡て委託品の積戻し及賣残品の返送であつて輸入保税品の加工業なり之等加工品の再輸出せられたるものは皆無の譯である。

左表は輸出入各主要項目別に依る價額と其の出入経路を示す。（單位銖）

主要品目別	佛曆 二四七六年		佛曆 二四七七年	
	盤谷港	其他諸港	盤谷港	其他諸港
(輸入の部)				
一般商品	七、六二五	九、九七四	六、五四九	一一、六二〇
酒精及酒類	一、〇五五	一、〇三三	一、一〇一	一、三三三
阿片	四、〇六〇	一	四、〇六〇	一
地金銀貨幣	四、九八六	三、八九	四、九八六	一
計	一七、七二五	一一、〇三三	一七、七二五	一三、九八四

金葉箱 合計	(口)輸出の部						
	米	錫及錫礦	其他雜品	再輸出品	地金銀貨幣	合計	
兎、三五	六、四〇、八六六	四、七〇、四九七	八、四三、〇七〇	一、七三、九七〇	一四、六六、九七五	一〇、二八、九七〇	兎、三五
一〇、二六、九七〇	二、五六、五〇〇	一	四、四七、一六六	四、三三、六〇〇	二、四〇、〇〇〇	四、九〇、三三三	兎、三五
六、三三、六〇〇	六、三三、六〇〇	四、七〇、四九七	四、三三、六〇〇	二、四〇、〇〇〇	一四、〇九、〇〇〇	一四、〇九、〇〇〇	兎、三五
六、九〇、三三三	六、七三、五五八	四、五八、八八八	一〇、〇〇、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇	二、五三、九七五	二、六七、四九〇	兎、三五
二、七三、〇〇〇	一、七三、〇〇〇	一	六、三三、六〇〇	一、五五、〇〇〇	五、四四、三三三	三、九〇、〇〇〇	兎、三五
一〇、七六、五五二	六、四七、七〇七	四、八八、八八八	六、三三、六〇〇	二、五三、九七〇	三、九〇、〇〇〇	二、五三、九七〇	兎、三五

一六

次に當國への輸入貿易の仕出額を見る昨年引續き依然首位に在るものは日本にして他は英國、支那、蘭領東印度、馬來、印度等が重要な地位を占めて居る。

百萬銖以上の輸入額を示す主要國よりの輸入を昨年の數字に比較すれば左表の通りである。(單位銖)

仕出國名	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
日本	一四、六四八、九六九	一一、二五、二八〇
新嘉坡	一二、六〇〇、六五五	一三、九二二、三二〇
香港	一一、二七三、四一九	一一、〇七五、四六三

蘭領東印度	一一、五四〇、九一〇	一一、九七八、〇六六
英國	一〇、八六六、六七五	一一、四五六、五六四
彼南	七、六四五、三六四	八、四五八、八九九
印度	六、八七七、二一八	四、八八〇、一六一
支那	四、〇四二、二七四	三、九九四、七六六
獨逸	三、〇五〇、三一一	三、五八二、〇八三
米國	二、七三二、五七八	二、七八〇、八五〇
和蘭	一、四六四、二〇五	一、二九、〇〇六
瑞典	一、一三二、四三九	一、〇七四、八七七

右の内香港、新嘉坡及彼南よりの輸入は中繼貿易が多く即ち香港よりは支那、日本等の商品多く又新嘉坡よりは英國其他歐洲諸國及馬來日本其他南洋諸國よりの商品が多い、右の事情は左表の示す通である。(單位銖)

原産仕出國	香港經由	新嘉坡經由
支那	八、四六八、五三八	一四五、二六八
日本	二、〇一九、四〇八	二、五八一、二二一
蘭領東印度	四一、八四五	二、七三〇、七一六
印度	五三、八六六	三、二八六、〇六四
英國	一七五、四九五	一、三三九、七四八
米國	六六二、六二一	八六〇、一八三

一七

獨逸	七九、五七一
加奈陀	九
臺灣	二〇〇、〇七八

佛曆二四七七年	二四〇、四八八
佛曆二四七六年	一七一、六八五
	三七五

又當國の輸出貿易は大體米輸出の増減に依つて之に對する諸外國の地位が變つて來るが日本の如く輸入に於て第一位を占むるものも其の本國の暹米輸入制限に依つて當國よりの輸出は漸く九十萬鎊に過ぎずその順位は遂下位に居る而して當國輸出は依然原料國産品(米、木材、錫、護謨、コブラ等)を主として居るが之等の主要仕向國は印度、支那、西印度、蘭領東印度、英領馬來で左表の如き數字を示して居るが其の上位に在る新嘉坡、香港は米及木材、又彼南は錫の夫々仲繼地としての地位を占めて居るのである。(單位鎊)

仕向國名		佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
新嘉坡		三五、四四三、六六六	四四、八五一、二二二
香港		三八、三六六、〇〇二	三六、七四五、一六六
彼南		三三、二四九、九五八	三六、四〇三、九五〇
印度		五、七九四、四〇二	一五、九七九、二四二
西印度		七、〇五八、一四八	一〇、七〇六、三三四
支那		一、六六〇、二七二	八、八三三、九二九
蘭領東印度		八七九、六六一	四、一七三、二六二
英領馬來		三、五一八、四一九	二、〇六九、四八二
獨逸		四、一七八、四八七	一、七九三、八一六

仕向國名		佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
錫蘭		一、九五二、八六六	一、三三九、一九一
和蘭		一、一八三、九三七	一、三〇九、七八四
英國		一、一四三、七一八	一、六八八、五四三
南アフリカ		八六〇、〇六〇	一、〇七一、七七六
日本		四、一六四、五五九	八九三、八七六

二、輸入貿易

本年中の輸入總額は前述の如く昨年中の數字に比し八百六十七萬鎊の増加を示したが各主要項目に付て見るに一般商品は千二百九十三萬鎊を増し酒精及酒類は八萬鎊餘を増加して居るに對し地金、貨幣金箔及び阿片、夫々減少し阿片が昨年中四百八萬鎊の輸入を見たるも本年中は皆無であつた阿片は當國政府專賣に屬し凡て政府の手に依つて輸入せられ其他地金、貨幣乃至金箔の如く直接當市場經濟界の景氣に關係なきものが減少して居るに反し一般商品が巨額の増加を示して居るは注意を惹く所である。(單位千鎊)

項目別	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年	増(+)	減(-)
一般商品	八七、一九五	一〇〇、一二八	(+)	一二、九三三
酒精及酒類	一、一四〇	一、二二五	(+)	八五
地金、貨幣	四九三	三三六	(-)	一五七
金葉、箔	四九	三八	(-)	一一
阿片	四、〇八六	—	(-)	四、〇八六
合計	九二、九六三	一〇一、七二七	(+)	八、七六四

次に一般商品中の主要項目別に就いて見るに食料品が三十萬銖を減じて居る外凡て増加を示して居る。此の内綿織物類が三百六十一萬銖の巨額を増加せる外、米輸出に不離の關係ある麻袋が二百四十五萬銖を増加せるは注意に値する所で、その他金屬製品類の百四萬銖紙類の六十萬銖、車輛類の五十一萬銖、煙草類の四十萬銖、護謨及同類似物製品類の四十萬銖等の各増加が目立つて居る、斯の如く輸入統計の上のみにては當市場の相當の活況ありたることを示して居るのである、左表は一般商品中の主要項目別輸入品の昨年との比較を示す。(單位千銖)

項目別	佛曆二四七六年		増(+) 減(-)
	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年	
食料品	一五、〇九三	一四、七八八	(-)
石油	四、三四八	四、四六八	(+)
ベンジン	四、三一三	四、六六三	(+)
液體燃料	一、三八〇	一、六三二	(+)
武器類	六三	三四五	(+)
護謨製品	一、一六五	一、五五六	(+)
化學製品	七七八	九九三	(+)
電氣用具	一、四八二	一、六八八	(+)
麻袋	四、四五九	六、九一四	(+)
機械類	二、九五七	三、一四七	(+)
藥品類	一、一九九	一、四三四	(+)
金屬製品	七、二九五	八、三三四	(+)

紙類	一、六五六	二、二六四	(+)	六〇八
活動寫真フィルム	四九四	六六六	(+)	一七二
織物類				
イ、綿製品	一六、〇三五	一九、六五二	(+)	三、六一七
ロ、其の他	一、六九六	二、一四〇	(+)	四四、四四四
煙草類	四、二五〇	四、六四三	(+)	三九三
車輛類	一、七三四	二、二五一	(+)	五一七
絲類	二、六五三	二、九六六	(+)	三一一
其他	一四、一四五	一五、五八四	(+)	一、四三九
合計	八七、一九五	一〇〇、一二八	(+)	一二、九三三

尙輸入統計の上に當市場の活況回復が示されて居る點に言及したが最近六ヶ年間に於ける當國の輸入市場は佛曆二四七二年(一九二九—三〇)頃の最盛期を峠とし急激に沈靜を深め佛曆二四七五年(一九三二—三三)を底とし漸次に回復し本年に入つて米市況の若干回復と相俟つて可なりの好況が看取されたのである、即ち總輸入額は過去三ヶ年間の各數字を遙に凌駕して居るのである左表は過去六ヶ年間の輸入の傾向を示す。(單位銖)

佛曆年度	一般商品	酒類	阿片	地金貨幣	金葉箱	合計
二四七二	一五、〇一五	三、五三〇	四、六八六	四、九七一	三、五三〇	三〇、七三九
二四七三	一四、七〇〇	三、七〇〇	四、七二五	四、四三三	一、八四〇	二九、〇〇八
二四七四	一五、五二四	一、五三〇	三、三六二	三、四八三	二、八五〇	二六、八六七

三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三
三、輸出貿易	六、六六、三六六	一、〇〇、七五〇	一	一、六二、七五〇	三、〇〇〇	六、四七、三三三

本年中の輸出貿易は昨年比し二千八百五十一萬銖の増加を示したが、各主要項目別に見るに左表の如く僅に地金、銀、貨幣が減少したに止まり米、護謨、錫、共に大なる増加を示し殊に米は平均輸出価格が下落したに拘らず數量が異常の激増を示し爲めに其の價格は千五百四十七萬銖の増加となつて居る。(單位千銖)

項目別	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年	増(+)	減(-)
米	八二、九六七	九八、四三七	(+)	一五、四七〇
錫及錫礦	(擔) 二七、七二五、〇〇〇	三三、七〇一、〇〇〇	(+)	五、九七六、〇〇〇
チルク	二四、五四三	二六、三四七	(+)	一、八〇四
護謨	四、二七四	四、五八九	(+)	三二五
其他國産品	二、三六〇	九、三〇六	(+)	六、九四六
再輸出品	一三、六四六	一九、四七四	(+)	五、八二八
地金、貨幣	二、〇〇四	二、八八四	(+)	八八〇
合計	一四四、〇七九	一七二、五九五	(+)	二八、五一六

米輸出は昨年比し非常な増加であるが最近六ヶ年間の輸出量は左の通り

年 度	數 量 (擔)	價 額 (銖)
佛曆二四七二年	一八、八六〇、〇八七	一三九、〇八七、三九〇
佛曆二四七三年	一七、一一二、三三〇	一〇三、〇六七、七一八
佛曆二四七四年	二二、二〇〇、四五三	七七、五〇〇、三五四
佛曆二四七五年	二七、八六七、二一〇	九四、二〇〇、六六〇
佛曆二四七六年	二七、七二四、六三一	八二、九六七、三三〇
以上五年平均	二二、七五二、九四二	九九、三六四、六九〇
佛曆二四七七年	三三、七〇一、一二五	九八、四三七、三九七

即ち數量は其の前五ヶ年間の各輸出量を遙に凌駕して居るが其の價額は五ヶ年平均額に及ばず、本年度輸出量の殆ど半を超すこと僅少なりし佛曆二四七三年中の價額にも達しなかつた、斯の如く輸出来價の不味は甚しく最近五ヶ年間に於ける輸出来の各品種の平均價格擔當りは次の如くである。(單位仙)

年 度	白 米	白碎米	白粉米	玄 米
佛曆二四七三年	七九四	四八九	二四九	四一六
佛曆二四七四年	四六六	二九二	一一二	三二三
佛曆二四七五年	四一五	三〇二	一四七	二九一
佛曆二四七六年	三九二	二四八	一〇四	三〇〇
佛曆二四七七年	三七五	二三八	一一〇	二八九

而して輸出米の仕向地別割合は次の如し

仕向地	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
香港及支那各港	四〇・二%	三三・五%
新嘉坡	二六・七	二六・六
印度及錫蘭	一〇・七	一九・二
蘭領東印度	〇・七	三・七
歐洲諸國	六・四	五・三
日本	四・九	〇・一
西印度	五・九	八・三
其他諸國	四・五	三・三
合計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

尙前額輸出主要項目の中「其の他の國産品」に就いて更に重要品別に依る輸出額を示せば次の通りである。

品目	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年	増(+) 減(-)
鹽魚	一、八二四	二、四三四	(+)
生果物	三六七	五六三	(+)
葱	四一七	四五〇	(+)
胡椒	一七一	五一一	(+)
食鹽	三九一	五六三	(+)
カルダモム	二一〇	三四一	(+)
木炭	一一六	二四二	(+)
コアラ	一八二	四八	(-)
皮革	七三二	八七一	(+)
スチックラック	一、〇〇八	二、八〇七	(+)
雜原料品	八六八	一、〇二七	(+)
黒絹	三五二	五一八	(+)
其他	四、五五四	五、〇五五	(+)
合計	一三、六四六	一九、四七四	(+)
水牛	五一五	九四二	(+)
牛	四七四	九〇四	(+)
豚	一、二一〇	一、六二八	(+)
家鴨卵	二五一	五七〇	(+)

(單位千銖)

鹽魚	一、八二四	二、四三四	(+)	六一〇
生果物	三六七	五六三	(+)	一九六
葱	四一七	四五〇	(+)	三三
胡椒	一七一	五一一	(+)	三四〇
食鹽	三九一	五六三	(+)	一七二
カルダモム	二一〇	三四一	(+)	一三一
木炭	一一六	二四二	(+)	一二六
コアラ	一八二	四八	(-)	一三四
皮革	七三二	八七一	(+)	一三九
スチックラック	一、〇〇八	二、八〇七	(+)	一、七九九
雜原料品	八六八	一、〇二七	(+)	一五九
黒絹	三五二	五一八	(+)	一六六
其他	四、五五四	五、〇五五	(+)	五〇一
合計	一三、六四六	一九、四七四	(+)	五、八二八

即ちコアラが減少を示した以外「スチックラック」の如き二倍半強を増し他主要品も凡て増加して居る。

四、日運貿易

日運貿易は既述の如く輸入に於て二一、二二五、二八〇銖、又輸出に於ては八九三、八七六銖を示し輸入に就いては當國貿易の上に各國の首位に在り若し新嘉坡、及香港兩港經由のもの竝に臺灣、朝鮮よりの貿易額四、八一三、一八二銖を

通計するときは二五、九三八、四六二銖に達し當國輸入總額の實に約二割五分を占めることゝなる而して之を昨年中の數字一八、二二五、一九二銖に比較すれば七百八十萬銖を増加し、其の割合は約五分を増した斯の如く日本品輸入が長足の増加を示し從來當市場に於て優位を占めて居た、英國品を完全に凌駕し得て茲に有力なる地歩を確保したのであるが斯る邦品發展の跡は左表に依て明示せられるであらう。(單位十萬銖)

仕出國	佛曆二四七四年	佛曆二四七五年	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
日本	八四	一二九	一八一	二五九
關領東印度	一五一	一四三	一四八	一四七
英國	一四四	一三七	一二三	一二九
香港	二〇七	一八八	一二八	一二八
新嘉坡	一〇五	一〇四	一一〇	一一九
印度	八〇	六二	九五	八二
米國	五〇	四〇	三九	四三
獨逸	四二	三三	三二	三九
和蘭	一六	一七	一四	二一
瑞典	一六	一五	一一	一〇

右表中各國共香港、新嘉坡二港經由貿易を通算し而して新嘉坡は彼南及馬來を、香港は支那各港を又日本は臺灣、朝鮮を夫々通計して居る。

斯の如く日本の發展は實に目覺しきものがあり各重要品個々に見れば輸入品中數量に就いては四十四種又價額に就いては三十七種に對し日本品が夫々半以上を占めて居るのである、此の中重要なものは左表の如き趨勢を示して居る。(右は各品の當國への輸入總額中邦品の占むる割合を示す)

品名	數量%	價額%
麥酒	七六・六	五八・九
麵粉	九五・三	九三・四
亞鉛引鐵板	八八・八	八八・四
鐵線及その製品	九〇・一	七六・三
鐵釘	六四・五	六五・三
自轉車	六二・九	價額半に達せず
自轉車部分品	六三・四	
人絹布	八六・七	八二・二
金布	五六・六	五三・九
其他綿反物	六四・八	五九・六

以上の如く當市場に於ける日本品は從來より大體輕工業品の範圍に止まつて居ることが知らるゝのであるが尙其の個々に就いて見るときは漸次粗製品より精製品に屬するものが多くなつて來た。例之綿製品に就いてはボイル、ポプリンドリル等が多くなり其の他金屬製品が多種となり、自動車用品及其の部分品の如きに對する異常の進出が注意を惹き印刷紙護製煉乳等の増加が著しく目立つて居る。

左表は日本品が重要な地位を占めるに至つた貿易品の重要國よりの輸入額を示すものである。

(イ) 食料品

品名	佛曆二四七六年		佛曆二四七七年	
	數量	價額 (銖)	數量	價額 (銖)
歸 罐	一、〇三八、八四九	二二〇、一八六	一、一七六、二四〇	二二六、八一二
日 本	九一七、一五三	一八八、三七六	一、一〇〇、八六三	二一一、九三一
支 那	九、三五九	一五、二二四	一一、七三八	二二、四一一
日 本	四一三、五九九	二七、六二七	三、八六七、七三六	二二九、二九四
支 那	三六、二六四、五六六	四、六二六、四二〇	三八、二四五、〇二〇	三、八六〇、二三八
日 本	二九、三二〇、〇二二	三、九三六、五五四	二九、九〇二、五五五	三、〇七七、〇三二
支 那	一、二〇三、四四九	九四、七三〇	六四四、八七九	三〇七七、〇三二
日 本	五九三、一六五	五九八、三八九	六七二、一四三	六四九、四一六
支 那	三六、三九二	三六、四一七	二二三、八六四	二二三、〇九二
日 本	四五一、二三七	四五一、三七二	三五五、二九四	三四五、五三六
支 那	五六、二一三	五一、七五七	三五、二六七	二二、三八〇
日 本	九、九八四、七七七	一、三六三、二六六	一〇〇、二三、九二九	一、四一四、〇一五
支 那	三六九、一八〇	四六、〇一八	五二四、六六〇	七六、二六七
日 本	二五六、七四五	一七、五四八	一九九、三五七	一三、四五七
支 那	四、二九二、五七五	五三六、五三四	五、一五三、九三三	六一〇、五八九

品名	佛曆二四七六年		佛曆二四七七年	
	數量	價額 (銖)	數量	價額 (銖)
支 那	一、九一八、九四三	三四五、二二一	三、一一一、六〇六	三五三、三三〇
日 本	九四三、四六二	一四一、一二六	九四八、六七五	一三七、五四七
支 那	一一五、三四六	一五、六六二	二四〇、九四三	三二、一六三
日 本	四、八九四、三五二	一、七〇三、八〇八	六、三二二、八三〇	一、九八一、五一九
支 那	九六九、七五一	三三六、六五六	一、四七〇、三七九	四六一、一七三
日 本	一、四三四、三〇八	五二七、五一七	一、七一五、九四九	五六三、三三七
支 那	八七八、三六四	二九九、八二三	一、〇〇〇、七二一	二九五、六〇八
日 本	四六、六二七	一五、八二〇	五四三、六五七	一六六、二〇八
支 那	四、九七六、七六二	四七五、九二〇	四、六二二、五一五	四九九、七一八
日 本	八五、九九三	二〇、五八四	三八、五九六	七、五五三
支 那	八〇、二七九	三八、七四三	一四六、一五七	六七、九八七
日 本	二五、二二一	一一、〇五七	三三、〇六五	二一、五七〇
支 那	三、六四一、六四三	九三七、一三五	二、六二四、二九二	七二七、九六六
日 本	四九四、〇四七	一八二、七五四	四〇四、五六〇	二〇三、七二八
支 那	一、七二六、九六七	三〇六、三五五	一、三二二、四七四	二一三、〇三一
日 本	八六一、七四一	三三九、五二三	四〇六、五〇四	二〇三、六八六
支 那	一〇、四四〇、二六〇	八二四、三四九	一〇、五八〇、三七六	八〇五、四八八
日 本	七三一七、一二五	五六一、五〇二	八、六四六、〇二二	六三三、〇四七
支 那	一、三八八、七四九	一〇三、一六九	三、八七、二七五	三一、七七二



(一) 硝子製米	(二) 伊板硝子	(三) 硝子製器類	(四) 其他硝子製品	電氣用品	香獨逸	英獨逸	日獨逸	日製	新嘉坡	印製	麻袋
三二、六六八 五、七一一 九二〇、六〇八 六一〇、一二五 四九、七八八 三、八〇〇 九四七、九九〇 六四四、八五二 一六九、〇一五 八二、八三四 三七、四〇〇	一九、三九二 三、四〇〇 九三、一五六 四四、八五一 九、二八七 八五五	二一五、九〇八 一五八、〇三一 一八、四八六 六五、四五六 三七、五五九	三二、六六八 五、七一一 九二〇、六〇八 六一〇、一二五 四九、七八八 三、八〇〇 九四七、九九〇 六四四、八五二 一六九、〇一五 八二、八三四 三七、四〇〇	二一七、八二〇 一、二一七、四三三 二九二、三八六 二二八、三三六 三九、六二一 一九九、二七五 二二二、四〇四	三一五、八一六 一、四八一、五〇六 二〇二、四五七 二二一、三三八 一一、九五六 二四八、六四四 二八〇、五二七	二七五、六三三 一、五九九、三〇五 四八六、五五四 二五三、六七一 八八、二〇〇 七二、一九一 四一四、二〇三	一、六八八、二九九 二九四、六七七 二四五、九四七 一八六、九〇九 一四二、五六四 四〇四、三三二	一、四二一 三、四六九 一〇〇、七〇七 四六、九二二 一一、三一四 一五、二四一 三〇一、二四一 二四一、四〇六 二六、三九五 六八、九九五 三五、九一九	四、四五八、八六八 一、八八三、四七六 二、三六四、〇八一 四七一、二〇七 三〇一、六八八 二六〇、九〇八 一六、一四二 三五二、四七一 二〇一、一六六 二三五、五九五 三四、六六二 五九、九五八 一四〇、八三八 五五、九三四 七八、二四〇 一八、六七四 一八、〇〇〇 三三二、八〇二 一三七、一四三	六七、五八一 三七、三七四 二八、三九五 三二四、二三四 二二〇、八二二 二五六、四五八 三七、三〇二 八七、七六五 六〇、九〇四 一一、五七六 二五、三一七 五八、〇一九 五三七、四五六 四〇七、二三三 七六、九三〇 五〇、五八〇 一六、八五五 二七二、八四一 六七、七一九	六、九一三、六八六 三、八〇四、四九八 二、九三八、四〇五 五九四、一一〇 四五四、二六八 二四四、七八八 三二、五三〇 二四八、九九九 一六二、一六四 三五八、五九三 五三、一〇四 一三七、二六四 一九三、六〇〇 九〇、六九三 七七、〇九二 二五、四八四 二二、六九〇 三三六、六九九 一三五、五九五

硝子製米	伊板硝子	硝子製器類	其他硝子製品	電氣用品	香獨逸	英獨逸	日獨逸	日製	新嘉坡	印製	麻袋
三二、六六八 五、七一一 九二〇、六〇八 六一〇、一二五 四九、七八八 三、八〇〇 九四七、九九〇 六四四、八五二 一六九、〇一五 八二、八三四 三七、四〇〇	一九、三九二 三、四〇〇 九三、一五六 四四、八五一 九、二八七 八五五	二一五、九〇八 一五八、〇三一 一八、四八六 六五、四五六 三七、五五九	三二、六六八 五、七一一 九二〇、六〇八 六一〇、一二五 四九、七八八 三、八〇〇 九四七、九九〇 六四四、八五二 一六九、〇一五 八二、八三四 三七、四〇〇	二一七、八二〇 一、二一七、四三三 二九二、三八六 二二八、三三六 三九、六二一 一九九、二七五 二二二、四〇四	三一五、八一六 一、四八一、五〇六 二〇二、四五七 二二一、三三八 一一、九五六 二四八、六四四 二八〇、五二七	二七五、六三三 一、五九九、三〇五 四八六、五五四 二五三、六七一 八八、二〇〇 七二、一九一 四一四、二〇三	一、六八八、二九九 二九四、六七七 二四五、九四七 一八六、九〇九 一四二、五六四 四〇四、三三二	一、四二一 三、四六九 一〇〇、七〇七 四六、九二二 一一、三一四 一五、二四一 三〇一、二四一 二四一、四〇六 二六、三九五 六八、九九五 三五、九一九	四、四五八、八六八 一、八八三、四七六 二、三六四、〇八一 四七一、二〇七 三〇一、六八八 二六〇、九〇八 一六、一四二 三五二、四七一 二〇一、一六六 二三五、五九五 三四、六六二 五九、九五八 一四〇、八三八 五五、九三四 七八、二四〇 一八、六七四 一八、〇〇〇 三三二、八〇二 一三七、一四三	六七、五八一 三七、三七四 二八、三九五 三二四、二三四 二二〇、八二二 二五六、四五八 三七、三〇二 八七、七六五 六〇、九〇四 一一、五七六 二五、三一七 五八、〇一九 五三七、四五六 四〇七、二三三 七六、九三〇 五〇、五八〇 一六、八五五 二七二、八四一 六七、七一九	六、九一三、六八六 三、八〇四、四九八 二、九三八、四〇五 五九四、一一〇 四五四、二六八 二四四、七八八 三二、五三〇 二四八、九九九 一六二、一六四 三五八、五九三 五三、一〇四 一三七、二六四 一九三、六〇〇 九〇、六九三 七七、〇九二 二五、四八四 二二、六九〇 三三六、六九九 一三五、五九五

(五) 鐵	(四) 英 日	(三) 銅 鐵	(二) 眞 鍍	(一) 獨 本	金 屬 製 品	藥 品	支 那 類	日 本 類	産 品
板 抹	國 本	棒 器	港 本	器 逸	器 本	類 本	港 類	那 本	産 品
一、一〇、八八〇	二、三一七、〇四八	四、六四二、五一三	一、六四四、一五八	一、九七六、八九五	一八、七八二	一三一、一四九	五〇、八三四	二二三、二九〇	八八、七九五
一、一〇、八八〇	二、三一七、〇四八	四、六四二、五一三	一、六四四、一五八	一、九七六、八九五	一八、七八二	一三一、一四九	五〇、八三四	二二三、二九〇	八八、七九五
一、一〇、八八〇	二、三一七、〇四八	四、六四二、五一三	一、六四四、一五八	一、九七六、八九五	一八、七八二	一三一、一四九	五〇、八三四	二二三、二九〇	八八、七九五
一、一〇、八八〇	二、三一七、〇四八	四、六四二、五一三	一、六四四、一五八	一、九七六、八九五	一八、七八二	一三一、一四九	五〇、八三四	二二三、二九〇	八八、七九五

(一) 機 械	(二) 農 耕 原 動 機	(三) 其 他 原 動 機	(四) 原 動 機 ナ キ 機 械	イ 精 米 器	ロ 織 器	ハ 農 耕 器 械	ニ 液 漂 機	ハ 縫 衣 機	ト 其 他 部 分 機 械	調 査 日	機 械	日 本
三三一	二	三一	一三、六五六	三七〇	一二、二七六	三、一三三、九〇六	七七、四九五	五〇、六五六	五、三六四	一、六六八、四〇六	一、八二、四三四	六、八一六
一七八、四七五	四、〇八五	一〇〇、二五八	一六、二七八	一〇、五七	一八、一二六	一、三四八、六五〇	四二、三六六	一七六、九〇八	六、四四一	一、〇七〇、九八七	一九二、四一二	五、二九三
二四〇	四	三八	二〇、三〇三	二二九、五四七	一五、四一八	一、四七七、〇三三	八一、七九四	一七八、一三二	六、九四九	一、七〇六、二六八	九九、五二七	一八、五九〇
一七九、四二一	一七、六六五	五二、二七一	二〇、五四二	一九一、〇九二	一六、九一〇	九三四、〇五九	一一四、七八一	四一九、三七四	一〇、四〇九	一、二〇〇、七三七	一八八、九一五	一四、九七三

金貨  
物量

十二年表

帶鉄

十三年

(六)	(七)	(八)	(九)	(十)	(十一)	(十二)	(十三)	(十四)	(十五)	(十六)	(十七)	(十八)	(十九)	(二十)
日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英
板	板	板	管	管	釘	釘	釘	釘	釘	釘	釘	釘	釘	釘
八八一、八七八	一〇、二三九、八三六	九、四九五、六六三	一、九五五、四三〇	一、二四〇、三一八	二、九一〇〇	五〇一、四八九	二、二四六、七三三	一、五一三、四九八	二、九七六、三五二	一、七〇四、八九四	五五五、七一五	二、三、七七三	二五八、二八二	四七七、九九六
八七、一三七	一、三八六、三〇九	一、二六五、二八二	四二八、二九六	二六九、八一七	五、八一九	四一、四七七	三三一、七〇八	一七四、三六八	三二〇、三五五	一七四、八一六	一二九、〇五三	四、七八三	四四、四五六	九六、三五六
二〇、五〇八	一、〇七九、七九五	一、三三〇、八八七	一〇〇、八四、五五七	八、一〇〇	一九二七、五一一	五九、一九〇	一、〇八三、五九二	二、六八五、七二五	二、四二一、一三三	三、六六七、六五〇	二、三六四、九〇〇	六四四、九七四	一五四、三四八	二七一、六三四
一、〇八九	一、一五、五一四	一、七〇一、一一一	一、五〇四、〇三九	四六〇、〇一〇	四二六、一一八	一一、五六八	八七、八三三	三〇五、三九八	二、三二一、九四三	三、四八、三〇二	二、二七、〇〇八	一、三八、一九三	三二、七三八	五〇、二二六
一、一〇八九	一、一五、五一四	一、七〇一、一一一	一、五〇四、〇三九	四六〇、〇一〇	四二六、一一八	一一、五六八	八七、八三三	三〇五、三九八	二、三二一、九四三	三、四八、三〇二	二、二七、〇〇八	一、三八、一九三	三二、七三八	五〇、二二六
七、五三〇	八八一、八七八	九、四九五、六六三	一、九五五、四三〇	一、二四〇、三一八	二、九一〇〇	五〇一、四八九	二、二四六、七三三	一、五一三、四九八	二、九七六、三五二	一、七〇四、八九四	五五五、七一五	二、三、七七三	二五八、二八二	四七七、九九六
八二二	八七、一三七	一、三八六、三〇九	一、二六五、二八二	四二八、二九六	二六九、八一七	五、八一九	四一、四七七	三三一、七〇八	一七四、三六八	三二〇、三五五	一七四、八一六	一二九、〇五三	四、七八三	九六、三五六
二〇、五〇八	一、〇七九、七九五	一、三三〇、八八七	一〇〇、八四、五五七	八、一〇〇	一九二七、五一一	五九、一九〇	一、〇八三、五九二	二、六八五、七二五	二、四二一、一三三	三、六六七、六五〇	二、三六四、九〇〇	六四四、九七四	一五四、三四八	二七一、六三四
一、〇八九	一、一五、五一四	一、七〇一、一一一	一、五〇四、〇三九	四六〇、〇一〇	四二六、一一八	一一、五六八	八七、八三三	三〇五、三九八	二、三二一、九四三	三、四八、三〇二	二、二七、〇〇八	一、三八、一九三	三二、七三八	五〇、二二六
一、一〇八九	一、一五、五一四	一、七〇一、一一一	一、五〇四、〇三九	四六〇、〇一〇	四二六、一一八	一一、五六八	八七、八三三	三〇五、三九八	二、三二一、九四三	三、四八、三〇二	二、二七、〇〇八	一、三八、一九三	三二、七三八	五〇、二二六

三六

(一)	(二)	(三)	(四)	(五)	(六)	(七)	(八)	(九)	(十)	(十一)	(十二)	(十三)	(十四)	(十五)	(十六)	(十七)	(十八)	(十九)	(二十)	
日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	日英	
板	板	板	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	
八、一二四、七一一	六四、二六一	二八、二九九	一、一三、八七三	七、〇六〇	三七、二二五	二八、〇二八	八、八一六	一、二六、七三四	三二一、一一八	三、九七八、四〇三	一、三〇九、九七二	五三三、二二八	一三三、八六九	七、七五五	六六、五三七	五六二、四七九	七二、八六四			
二、一二四、一〇三	七五、九八〇	一九、九三三	二六七、二七六	三、二一〇	五二、二二三	六八、二二九	一三、二二三	三六六、五一二	八〇、一九九	一三四、九三一	七四五、八二五	一九二、〇二〇	七二、五四四	二二五、〇〇一	八、五二七	一九、八八四	二六四、七二三	五一、三二五		
一〇、五七五、九五三	七、七二九	二四、〇四一	九六五、六八二	一、二、三八九	五六、六一九	三七、四一一	一六、四三九	一、一〇四、三三八	四〇〇、五四〇	二九二、一一六	七、五一三、二八五	三、二七八、九八四	一、五六三、七〇八	一六五、三二九	二、三〇四四	一〇五、五二一	三四八、五二一	八六、八四一		
二、六二〇、四七六	八五、〇四七	一六、九三三	二四九、八五四	五、九五五	七二、六四八	八一、四二五	二一、三九三	三七七、三四四	八六、三二五	一一三、三六四	一、二、三六、五五二	四八一、二一四	二〇五、八〇〇	二六二、三七三	一九、一三八	一五四、一六	二〇七、三八三	六三、四四四		

三七

(八)	(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	綿	文	運
人絹アロケード	緋金	染金	生金	晒金	更紗	綿肩	腰布	製房	英房	英動
本	布	本	布	本	本	本	本	類	品	具

一六〇、三五四	一六六、三三三	一九一、二六二	六二一、一八〇	一、五九七、一五六	四二五、一七〇	一、二二八、八二三	一、〇七一、二三三	一、六八二、七五九	二九六、一六二	四七一、三二八	四九九	六、二三六	二七四、三五五	一〇、三〇〇	一六、八六一
三九〇、一七〇	一二五、二三七	二一三、八四四	八四四、九二一	二、二二八、七六〇	四一三、二五一	一、二四、二二四	一、一五六、五五三	二、一六〇、一七〇	四一九、六四九	七五二、八七〇	一九、九六六	一九、二〇二	三三六、三一	二六五、七七三	七五、四〇六
二二九、六四五	一八七、四五六	二九四、四五四	六五四、六六六	一、六六九、五〇四	一、四九一、九六一	一、二四、三一〇	二、一六〇、一七〇	二、一六〇、一七〇	二、一六〇、一七〇	二、一六〇、一七〇	一、一五六、五五三	一、一五六、五五三	一、一五六、五五三	二〇〇、四一七	二二九、六四五
六四八、九〇四	一九四、二四五	一、〇二八、六四一													

(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)	綿	文	運
其他綿反物	人絹反物	日シ	日ボア	日コットンファンシー	日ド	日寒	日英	日ガムブリック	日ボイ
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本

一、二〇二、〇四三	一六〇、九四一	二一九、四六四	二〇四、三八三	二二八、二四二	九六、九七七	二七九、七六八	一六〇、二五九	二一四、七六〇	三三、七四九	一七一、九二〇	三七、二四七	九四、一五八	七〇、二三五	一三七、一三五	二七一、二一七	七、二五八	一〇八、四四七	一、一六、五二〇
一、七四五、一一一	四三八、八五五	六六八、七〇七	二三一、四一四	三五七、九〇一	一九二、三二六	六一、三三三	一八九、八八六	三〇七、三八二	四七、六三九	三〇二、六〇六	五〇、三六八	二四〇、五八五	一四九、二五九	一六八、三一七	四四九、二二四	三四、五七五	五五三、三四八	二九九、二六四
一、二七七、八一九	五九七、九七八	五九七、九七八	一八五、一五一	一九四、五五七	四七二、八四五	六二六、五四六	一一六、五五一	一五〇、二九〇	一一八、三七三	二七九、五〇〇	七四、九一六	五二、九五四	七二、九三二	三二四、六七四	四四九、八六一	二二、六二六	七五、九五五	二二九、六五一
二、〇〇九、六四三	一、五三七、一七六	一、八六八、九四六	二四九、〇四四	二五六、六七〇	七二、八七五	一〇七、〇一五	一一八、一五八	一九〇、一五六	一五七、一一九	四二九、九一六	八四、二八一	一五七、五二五	一六六、〇一一	四四六、四四九	七〇五、八一六	九三、四四三	三六三、〇二〇	六三一、五五一

手道具類	玩日具本	洋日傘本	紙香日傘本	自支動車那	自動車部分品	自轉車部分品	自轉車本	自轉車本	自轉車本
------	------	------	-------	-------	--------	--------	------	------	------

二〇、四八二	六〇九、七八二	三一、三三二	一四〇、二五二	一二一、〇二四	二七九、九一二	七〇、〇一二	二〇五、二六二	一、二八三、六〇〇	九五〇、九四七	五七二	二二五、〇一九	一五、二九三	九、二七八	一、〇三七	六、三九三	五、二四六	四六三、二四	七八、六〇三	三九五、二一七	一四、六四九	一二九、九二〇	一一〇、二二八	一一三、三五〇	二六、五九九	八〇、二六四	一八六、八二六	一三八、八〇三	五〇八、四三四	二八〇、九二九	一一、九〇〇	二〇、六六〇	九八三	九五、八一〇	六五、四八六	四〇八、六二八	二〇、二五八	七五一、六六八	五五、九八三	一八三、〇九四	一五三、二四〇	四〇八、八六三	一四四、一七三	二六一、四四七	一、五〇四、六〇三	一、二六、〇二一	七四三	三二九、三九七	七九、四〇八	八、二六二	一、八九三	七、一三九	四、四九五	七二九、七三九	一七、二四七	四七四、五五二	二八、三五四	一七〇、一〇五	一四九、六九九	一三三、三七一	四一、四四〇	七九、四五四	二〇七、七八九	一五五、七〇九	九〇六、〇一五	五、五三二	三九一、〇九二	四六、六一〇	一五、五六一	一、六四三	一、二八、五九六	五九、九〇〇	五七一、七八二
--------	---------	--------	---------	---------	---------	--------	---------	-----------	---------	-----	---------	--------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	---------	--------	---------	---------	---------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	--------	--------	-----	--------	--------	---------	--------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------	----------	-----	---------	--------	-------	-------	-------	-------	---------	--------	---------	--------	---------	---------	---------	--------	--------	---------	---------	---------	-------	---------	--------	--------	-------	----------	--------	---------

日肌本	日香本	日綿本	日香本	日手拭本	日(半)手拭本	日(半)ハンカチーフ本	日反物本	日織物本	日英草本	紙卷煙草	葉卷煙草
-----	-----	-----	-----	------	---------	-------------	------	------	------	------	------

六五〇、九八八	一三〇、二八一	七四、六五三	七四、七九八	一、一四一、九一四	七二九、八八五	一七八、六二三	二〇三、八〇八	一八三、三三七	三一、四三八	一三五、二六九	一五、六七二	一〇一、八二二	一五、八八三	四、一四三	四、七四四	一、八九四、八〇五	一〇、五二七	四二、五四〇	八五八、九八二	四八二、八四四	二〇四、二二九	二三七、三四三	一、一七七、六八五	七九〇、八八八	一六一、一三六	三六二、八二八	三一七、六四〇	一六五、一八九	一、四四七、七五二	一三三、五六四	一、〇八、三四二	八二、〇七〇	一四、一八八	三四、九〇六	四、一七九、五二八	三〇、八一七	一二六、五六三	八二八、二二六	一五三、〇九九	九六、三四〇	四四、四九一	一、三三五、七四一	九〇一、二九一	二七二、二三九	二〇三、三〇三	一八〇、四七二	三六、六六五	一七六、六九九	一一、四〇六	一五四、一五五	二二、五三九	一一、四一六	三、六〇一	二、〇九三、九〇五	二一、七八五	六〇、二七九	一、一九八、〇〇三	四八〇、八六八	一九三、七七八	二三〇、〇五一	一、二九四、九一二	八八一、五九二	二五九、〇三三	三四二、四六二	二九八、五〇六	一五一、七四一	一、七五七、九四一	六六、九五四	一、五八九、九四六	一一三、三六八	四九、八二七	二二、八四三	四、五五四、一五〇	四七、二八九	五五、二九二
---------	---------	--------	--------	-----------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	--------	---------	--------	-------	-------	-----------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------	----------	--------	--------	--------	-----------	--------	---------	---------	---------	--------	--------	-----------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	--------	---------	--------	--------	-------	-----------	--------	--------	-----------	---------	---------	---------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------	--------	-----------	---------	--------	--------	-----------	--------	--------



品名	佛曆二四七六年		佛曆二四七七年	
	數量(擔)	價額(銖)	數量(擔)	價額(銖)
白米	一、七四五、八八九	四六、〇三八、一七	一五、七八四、八二八	五九、二五二、八三七
白米碎	三三、三四九	一〇六、四七九	二、五六一	八、二六一
白米	一一、四一〇、二二三	二八、二六〇、六七三	一三、二五五、五八四	三一、五八一、八五八
鹽	一、三二九、九八一	三、三六五、二七二	一六、〇一一	四一、三二一
鹽	一、五五七、三〇〇	三九一、〇九五	二、二一一、三六九	五六三、〇三三
棉花	一、〇三二	九、〇三九	九二、四一六	二七、五〇二
皮	一〇二	一、七八二	一、九二七	一五一、五七〇
護	五、四六七	七三二、〇五一	一、二二三	三、三四六
護	二七六	四、一八二	五三、二一一	八七一、一三一
護	一〇、八五三、二五七	二、二九五、三六二	五〇八	九、八二四
スチツクラツク	七、四、五〇九	一、〇〇八、二一五	三七、一七〇	八、七六三、〇五八
錫	八六	一、三九二	一三〇、五三一	一、九五〇、八
錫	二四六、三三五	二四、五四二、四九一	七六	二、八〇六、六八七
チ	四、五、八六四	四、二七四、四七九	二五五、二四六	一、八八六
チ			四四、一六一	二六、三四六、五四七
チ				四、五八八、八〇八

品名	佛曆二四七六年	佛曆二四七七年
日本	三、九四八	三、八〇一
其他	一、〇七七、九一〇	一、〇八八、一三三
日本	九三、七三二	一〇九、九二〇

五、主要國との貿易

當國市場に於て重要な地位を占むるものは依然英國である。統計の上に於て最近の日本品の驚く可き進出に依つて輸入貿易上の首位を日本に譲つて居るが多年當國市場に培ひ來つた英國品の地盤は鞏固のものあり殊に金屬製品、機械類、煙草、綿製品中高級品等に對しては英國品が最も多量に供給されて居る、英國よりの直輸入額一一、四五六、五六四銖之に香港及新嘉坡二港經由の輸入一、五一五、二四三銖を通算すれば一二、九七一、八〇七銖に達し當國總輸入額の一分強を占めて居る。之を昨年との数字一二、三三八、五三七銖に比較すれば五八三、二七〇銖の増加となつて居る。尙茲に注意すべきは彼兩より當國への輸入額は八四五八九九銖となつて居るが同港は暹羅南部地方一帯に對する貿易の伸張地となつて居るのであるが右数字の内には大部分の英國品を包含されて居るの點である。次に輸入統計の上に重要な地位を有するものは左表の如き數字を示して居る。(單位銖)

國名	直輸入額	香港經由	新嘉坡經由	通計
蘭領東印度	一一、九七八、〇六六	四一、八四五	二、七三〇、七一六	一四、七五〇、六二七
印	四、八八〇、一六一	五三、八六六	三二、二八六、〇六四	九、二二〇、〇九一
支	三、九九四、七六六	八、四六八、五三八	一四五、二六八	一二、六〇八、五七二
米	二、七八〇、八五〇	六六二、六二一	八六〇、一八三	四、三〇三、六五四

和蘭	一、二九、〇〇六	九五三	一六、一八二	一、一四六、一四一
獨逸	三、五八〇、〇八三	七九、五七一	二四〇、四八八	四、六一七、〇二八

右の内蘭領東印度よりは砂糖及雜食料品其他蠟油類を左記の如く多額に輸入して居る。

直輸入額	新嘉坡經由	通計
石油	二、七九四、八五九	九七八、一〇八
ベンジン油	三、七一五、九二〇	二二八、〇七九
液體燃料	一、〇九四、六八七	七、六一六
砂糖及糖蜜	三、二六六、四一七	三、二六六、四一七

印度よりは粗製綿製品及麻袋を輸入し當國の多量の米輸出に使用する麻袋は凡て印度より供給を仰ぎ本年度の其の輸入額は六、七四一、九〇三銖（新嘉坡經由のものを含む）に達して居る。又政府の輸入專賣品たる阿片は凡て印度より之を購入して居る。

支那よりの輸入は食料品、粗綿製品、綿絲其他比較的粗惡の雜貨類多く此の點に於て邦品に對する有力なる競争者たる地位に居る。

次に米國及獨逸は共に機械類及金屬製品等を多く供給し米國よりは右の外高級罐詰食料品を輸入して居り又和蘭よりは綿布類の外、煉乳其他の罐詰食料品を輸入して居る。

以上に依て大體當國輸入貿易上に於ける主要各國の地位が想見出来るであらうが、即ち日本は當國輸入の大部分を占むる粗製安價品を供給して現在の重要な地歩を確保したのであるが、今後は精製高級品、機械類、金屬製品等に入つ

て行くことに心掛けねば日本の對進貿易は大なる發展を期待することが出来ない、英、獨、米等諸國品の市場蠶食に目を置くべきであらう。何となれば安値雜貨の供給國としては支那、印度等が漸次有力なる地位を造り日本雜貨其他の綿布等の恐るべき競争相手となりつゝあるからである。

次に當國より諸外國に對する輸出を見るに新嘉坡、香港が暹米の二大仲繼港たる外彼南が當國產錫の殆ど唯一の仕向地であり之等三港が當國總輸出額の略七割に近いものを占めて居る、其の他主要相手國中印度には米及チーク材を西印度には米を、支那には米及木材の外雜多の國產原料品を南印度東印度には主として米を夫々輸出し歐洲諸國には若干の米の外木材、コブラ、スチツクラック等を輸出して居る。

六、船 舶

本年中盤谷港に入港の船舶は千四百五十五隻、百四十九萬二千二百四十噸にして昨年比して、百十七隻二十六萬五千五百噸を増し又出港船舶は同じく千四百五十五隻百四十九萬二千五百九十五噸にして昨年比し百十九隻、二十六萬二千九百八十八噸を増して居る、右入港船舶の國籍別隻噸數は左の通である。

國籍別	佛曆二四七六年	噸	隻	佛曆二四七七年	噸
(イ) 入港の部					
米國	七	三五、一七九	六	二〇、九三七	
白耳義國	一	—	一	二一五	
英國	二六〇	三四〇、三八一	二九二	四三〇、六三〇	
支那	八	一一、六一八	一〇	一五、六七一	
				四七	

(ロ) 出港の部							
計	暹羅	諸國	日本	伊太利	希臘	佛蘭	和蘭
計	一、〇二八	一、二二六、七三〇	一、一四五	一、四九二、二四〇	一、〇二二	一、四九二、二四〇	一、四九二、二四〇
暹羅	四一六	四一六	四一六	四一六	四一六	四一六	四一六
諸國	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九
日本	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八
伊太利	一	一	一	一	一	一	一
希臘	四	四	四	四	四	四	四
佛蘭	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
和蘭	六	六	六	六	六	六	六
計	四	四	四	四	四	四	四

計	暹羅	諸國	日本	伊太利	希臘	佛蘭	和蘭
計	一、〇二六	一、二二九、六〇七	一、一四五	一、四九二、二四〇	一、〇二二	一、四九二、二四〇	一、四九二、二四〇
暹羅	四一五	四一五	四一五	四一五	四一五	四一五	四一五
諸國	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八
日本	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八
伊太利	一	一	一	一	一	一	一
希臘	四	四	四	四	四	四	四
佛蘭	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
和蘭	六	六	六	六	六	六	六
計	四	四	四	四	四	四	四

○臺灣博覽會に招待せられたる暹羅人の臺灣視察談

曩に臺灣總督の招待を請け昨年十二月臺北にて開催された臺灣總督府治政四十年紀念博覽會を見學同時に臺灣島を視察したるシヤム人士四名は當時總督府を初め同島朝野の懇篤なる歓迎を受け満足感謝の裡に歸暹したが、其後或は新聞紙上に或は「ラヂオ」により次の様な視察又は感想談を發表した。

臺灣博覽會視察團の報告 (第一回)

- 暹字紙「シークルング」社記者 ナーイチャラーンザインツシー
  - トンブリー、バーニット商会 ナーイアンサータラバンツ
  - 暹字紙「シークルング」社 ナーイブランダグチユテーサ
  - 暹羅電氣會社 ナーイバツクトホングトーンダ
- 連名

## 暹羅代表總督の優遇を受く

臺灣總督の招待に依り博覽會視察に選ばれたる一行四名は昭和十年十月二十日盤谷發十二月四日基隆に安着した。

總督は接待員を派し一行を船中に迎へ汽車に搭乘同日夕刻臺北に着し用意のグランドホテルに案内せられた。

十一月五日 早朝接待員に導かれ總督府に出頭總督に敬意を表し且つ總督の厚意を謝すそれより市長、軍司令官を順

次訪問したる後博覽會場を縦覽した。

午後は一部公官吏の訪問を受け同夜陸軍司令官の晩餐に招かれた。

總督は次の順序に依り政府及大會社の主要事業を見學せしむる爲一行に對して左の日程を通知せられた。

十一月五日 二十二時三十分臺北發急行列車にて南臺灣に向ふ、其距離約二百五十哩。

十一月六日 八時高雄着屏東線に乗替へ九時臺灣最大の製糖工場を參觀する。それより屏東公園、山上のゴルフ場を視

察して高雄に歸り市中を見物した後十六時三十五分高雄發臺南に向ひ十七時四十六分臺南着當地に一泊。

十一月七日 自動車に乗り臺南市及安平港を見物正午バーンチャイデンに到着臺灣の灌漑工事を見學して嘉義に向ひ十

七時十二分嘉義着の上一泊。

十一月八日 午前植物研究所のゴム製造工場を參觀九時三十分嘉義より二水に向ひ二水より自動車に依つて水裡坑に到

り水車水力發電所を見學の上日月潭湖に遊覽、水車に一泊。

十一月九日 水車發列車にてキオーチに到り水力發電所を見學外車程、二水を経て十六時五十分臺中に到り又一泊。

十一月十日 朝臺中公園及市中の見物を了へ十一時臺中發十四時四十六分臺北に歸着。

臺灣の博覽會は平常毎年催さるゝこととなつて居るが本年は領臺四十年に當るので特に盛大に舉行されたのである。

十月十日に開かれ十一月二十八日閉會日數實に五十日間である博覽會の中心は臺北で夜の會場と晝の會場に區別されて

ある臺北の外臺南其他の地方に於ても博覽會の催があるのである。

博覽會に關する詳報は次の機會に報告する。

## 臺灣博覽會視察團の報告 (第二回)

## 大博覽會

四十年前に臺灣を領有して以來日本は臺灣の開発に必死の努力を續けて來た何となれば臺灣は我暹羅の風土氣候に似

たものがあり礦物及農産物に富むからである。

臺灣の發展如何は別に一編として報告することとし此處には何を措ても臺灣總督が我政府に視察團派遣の招待を發し

親善の意を表せられたる大博覽會の模様を報告するのが順序であらう。

大博覽會は十五年前に一回開催された換言すれば領臺二十五年紀念博覽會がそれである。

大博覽會は十月十日に開かれ五十日間の期限で同時に六ヶ所に催されたのである。1、臺北、2、高雄、3、臺南、

4、臺中、5、嘉義、6、モリソン山、就中臺北最も大規模で晝夜に亘りて開かれ他の五ヶ所は晝に限り開催されたので

ある。政府は博覽會補助費として約百五十萬圓の支出豫算を立てた。

臺北博覽會場には陳列館大小併せて約一萬軒あり縦覧者は内外人一日四萬人を下らず入場料八千圓に達する筈である

博覽會の主なる目的は日本の領臺四十年紀念たる外官民の事業に關する産業の發達を發表するにあり要するに此博覽

會は直接國民を誘導して生計の途を知るの指針たらしむる重要な役目を有するのであるから陳列品は悉く有益なる出品物のみである。

博覽會場内は官私の出品せる工場、手藝、農業、美術等の數部に分たれ右の中には此機會に廣告せん爲大小の會社商店より出品した夥しき雜品部があつた。

殆ど凡ての陳列品は藝術的に排列され精密なる統計と製造方法を發表せねばならぬことゝなつて居る。例へば製糖工場の出品には臺灣全島の模型を土臺として甘蔗島の所在地大甘蔗島の數及運搬用道路併に甘蔗栽培に適する空地を一目瞭然たらしめ更に工場の模型があつて内部に於ける機械の据付及構造を示し、參觀者の興味を惹くのは單に製糖工場を精く見る丈に止まらず機械の各部は電氣を應用して運轉作業して居た。先づ輕便鐵道に依りて甘蔗を工場に送り選擇、搾汁、濾過、配劑最後に砂糖と成る工程を實見に供し内外の市場に輸送する爲の包装に至る迄縱覽することを得製糖業に關する陳列館を一見すれば容易に製糖業を了解することが出来るのである又日本の或海運會社の陳列館は發達順序を統計を以て示したのを始とし大盪の模型を造り其の盪中に世界地圖に従て全世界の陸海を現はし海は眞の海水を湛へ島暗礁、著名の燈臺と各國の主要港灣の所在を示し居り我盤谷港も其内にあるは勿論である。而して航路網に従ひ電氣にて船を徐行せしめ、次には所有船の雛形を陳列し或は船を縦斷して内部の構造を參觀せしむる等々船舶館の各室を一覽すれば航海の性質並に航路は何れより何れに到り且陸岸迄の遠近距離等を直に會得することが出来るのである。

### 臺灣博覽會視察團の報告 (第三回)

各所の博覽會は官民の區別なく眞面目に參觀する者に對し有益ならしめんが爲め悉く精選せられ且つ充分なる説明が

加へられて居る。

上記の博覽會は同時に各所に開かれ就中臺北最も規模宏大なるは前回に報告した通で代表一行は各所の參觀に案内せられた。此博覽會は地方に適應して催されたもので其趣は多種多様である例せば南部臺灣の高雄は農産物に富めるを以て芭蕉、甘蔗等の農産物を主とし海産物の一部をも陳列し且農産物の統計及改良發達の跡を明示してある。

臺南は支那領時代の主要都市で度々戦火に見舞はれ且つ勝敗も此處に於て決せられたのであるから博覽會は主に臺南の興廢及び戰爭に關する古器物を蒐集陳列して居る。

海拔二千尺のモリソン山の博覽會は電氣應用に依り山を拔涉し得る様にしてあり遊覽客誘導を目的とした設備である臺灣の電燈料は極めて低廉で一ワット十士丹に過ぎないから惜氣なく電氣を以て裝飾するは勿論あらゆるものに應用し眞物を見るの觀あつた。

大博覽會見物の勧誘方法は宣傳の外政府は汽車賃其他の交通機關の運賃割引を爲したので汽車、電車、バス等毎回滿員の狀況を呈して居り特に指揮官及教員に引率されたる軍人及學生の團體は陸續として絶えず、大博覽會は此等の青年に對し除隊後若は卒業の上職業を選ぶ上に於て好き参考となるものと云ふも過言であるまい。

要するに大博覽會視察の機會を得たる者は郷國の事情を詳にすると共に各種産業の調査を行ひ職業選擇の便宜を與へられ然も其調査は精確にして博覽會一巡の勞あるのみで效果は莫大である。

吾人の見たる限り國民は階級の上下を選ばず老幼を問はず幼者は父兄に連れられ博覽會を縱覽し各自の好む所に從ひ熱心に觀察する者平均日に十萬人を下らざる可しと思はる。

臺灣の現状は次の機會に報告する。

## 臺灣の現状及進歩

十二月廿二日ナイチャランヴィンツシー放送

フォルモーサ一名臺灣は世界地圖上東經百十九度十八分―百十二度六分、北緯二十一度四十五分―二十五度三十八分の間に位する大島嶋にして我南部の約三分の一に相當する。地勢は中央に三千峰を下らざる山脈あり最高峰は海拔一四二七〇呎に達する。十月十一月十二月最も平穩にして三月に至れば臺灣の南海は時に猛烈なるタイフンを捲き起し航海者の海難頻出する。

臺灣は久く支那の領土であつたが佛曆二四三八年五月八日日本の領有に歸してより滿四十年に及ぶ。領有當時の人口二百五十萬なりし所佛曆二四三八年五月八日日本の領有に歸してより滿四十年に及ぶ領有當時の人口二百五十萬なりし所佛曆二四七六年の調査に依れば五百萬人に増加せりと内本島人四百八十萬日本人外國人約四萬ありと云ふ。

臺灣の行政は五縣に區劃せらる臺北(首府)新竹、臺中、臺南、高雄及臺東、花蓮港、澎湖の三小縣あり總督之を統轄し政務を分つこと左の如くである。

- 一、總督官房(國務總理に類す)
- 二、市 廳
- 三、外 事
- 四、教 育
- 五、財 務

- 六、農 務
- 七、林 務
- 八、守備隊本部
- 九、警察本部
- 十、裁判所

此外政廳は鐵道、專賣等の主要官房を有つて居る。

佛曆二四七七年度の支出豫算は一億一千萬圓。

臺灣人最多數の奉ずる宗教は佛教である。

全島に自治制を布き日本同様の扶翼を受け大小の道路は地勢に應じて適宜に建設され町村の清潔法は遺憾なく行はれ且整理の完備せること一行が往復に通過したる西貢、香港、彼南、新嘉坡は遙に臺灣に及ばざる如くである。

交通道路は總てアスファルトを敷詰め居り盤谷の御成道路の如き大道路數條を有し街燈夜尙は晝の如く不夜城の美觀を呈してゐる。それは電燈料の安値な爲であらう。都市と都市との間は完全なる道路に依つて連絡し自動車の往復交通運搬を便にして居る。

電話はアツタノーマット式を使用し日本と交換することが出来る。統計の示す所に従へば昨年度の電話呼出し回数は六千六百萬回に達すと云ふ官有鐵道は延長六二四、一哩を有し、無電局三ヶ所、郵便電信局は四百ヶ所に及ぶ。

政廳は教育に最大の注意を拂ひ日本語を基礎語として教へ外國語としては英語を採用して居る。臺北には大學校あり普通學校、實業學校及公立學校の數七百五十七校に達する。以て教育の普及を窺ふに足らう。假令菜田人と雖も義務教

育を受けねばならない男女學生は悉く規定の制服着用を強制せられる。學生の制服着用嚴守は自己の名譽を重じ往々我國の學生に見るが如き不體裁の行爲を慎む一助ともなるものである。

過去三年間の收支豫算

收入	佛曆二四七四年度	一億二千九百萬餘、	佛曆二四七五年度	一億二千九百萬餘、	佛曆二四七六年度	九千八百萬圓
支出	佛曆二四七四年度	一億〇九百萬圓、	佛曆二四七五年度	一億一千五百萬圓、	佛曆二四七六年度	九千八百萬圓

日本との重なる貿易關係 諸外國よりの輸入年額四千五百萬圓然るに日本からの移入額は年一億二千三百萬圓合計約一億六千八百萬圓諸外國への輸出額は年二千二百萬圓、日本への移出額は年約二億一千八百萬圓合計二億四千萬圓である。

全島の港灣に寄港する船舶は一年約三百五十萬噸

臺灣の氣候は寒熱何れにも偏せざるを以て農業に適し農業は國民の主要産業を成し人口五百萬の内三百萬人は農業に従事し人口の約五二パーセントを占め内二〇パーセントは米作農である、臺灣には尙ほ總面積の四十四パーセントの耕地を遺す。農産物の年産額は二億三千八百萬圓に達する。

主要農産物は米、甘蔗、茶、豆、煙草、バナナ、林檎、柑橘類にして米作は年三毛作時としては三毛作の出来る年もあり直接日本に移出する米は一億萬圓の巨額に達するのである。

臺灣の茶は三百年の歴史を有し今日も尙ほ主要輸出品の一たる位置を失はない。年額一千萬圓を輸出して居る。

甘蔗栽培は本島人の主要生業で其結果は臺灣糖の輸出を促進するに至つた。十大製糖會社あり總投下資本二億五千萬圓を下らず各製糖工場は政府監督の下に二十五哩の距離を保ち各所に散在し甘蔗運搬を便利にする。製糖會社中最大なるは臺灣製糖大日本製糖及明治製糖會社である。

内臺灣製糖會社は始め本島人の資本で佛曆二四四三年一百萬圓の資本を以て創設せられたのが今日では資本額六千三百萬圓を有し工場は高雄廳内屏行に在る。

山林は官有にして建築用の良材に乏しくない。

樟腦は英、米、佛、伊に輸出する。

臺灣に於ける礦物、金、石炭、石油等は年額千三百萬圓を産出し、漁業も亦主要生業の一たり漁夫の多數は日本人であり漁船は多く發動機船にして六〇〇隻に達し遠く數百哩の洋上に出漁し漁獲高は年額一千萬圓に達する。

政府の專賣品は阿片、鹽、樟腦、煙草、酒及酒精にして阿片の監督は我國と同様で阿片吸飲者は政府に税金を納むることゝなつて居る。

### 臺灣博覽會參觀報告拾遺

今回開かれたる大博覽會は極めて有益なる催で眞に大博覽會の名に恥ない。何となれば産業開發の博覽會たる外領臺四十年紀念を兼ね出品は悉く精選されたものゝみであるからである而して費用は莫大の額に達し政府の補助金丈でも百六十萬圓之に市民の分を合算する時は僅に一千萬圓を下らざるべしと思はれる。開期五十日間は強ち長過ぎるとは云へない。何となれば開會初期から參觀者雲集し各博覽會場を合すれば一日平均十萬人を下らず首府臺北は一日の入場者

四萬人を算し入場料二萬圓五十日間に百萬圓入場者總數五百萬人に達する計算で驚ざるを得ない。何となれば臺灣の人口は五百萬人に過ぎないからである。官憲の談に依れば斯の如く入場者の多數なるは左の三の理由に依ると云ふ。

一、地方に依つて其の住民は數個所の博覽會場を參觀する。換言すれば一人にて數個所の博覽會場を參觀し入場料二十錢で數回支拂ふこととなる。

二、政府は國民の博覽會參觀の勧誘にあらゆる方法を講じた。例すれば各學生は鐵道の特別割引に依り教師に導かれて參觀し而して農民も亦適當なる割引に依りて參觀する機會を得たこと。

三、各方面からの日本人及朝鮮人も尠からず更に二日に一回往復する遊覽船の日本人乗客は毎航海八百人を下らず此外上海・香港・廣東の支那人亦多數に上つた。要するに今回の臺灣大博覽會は日本人及東洋に於ける外國人に對する驚異の一つであつた。

臺灣の主要都市數個所に博覽會を催したのは博覽會本部の觀ある臺北の支部として設けられたのではなくして便宜上の分會場に過ぎない。即ち臺北は商工業の中心地で陳列品は各種の商品及工業に關するもののみであり、臺南は支那領時代からの舊首府で陳列品は多く繪畫古物にして博物館の觀を呈し、農業及漁業の壯なる高雄博覽會はバナナ、甘蔗等の農産物及各種の海産物を陳列し、海拔一千呎の山頂に在る博覽會場は臺灣各地の木材及林産物及高山樹木、林産物を重に陳列する等地方に適應する博覽會と云ふ事が出来る。

### 見學したる學術に關する事業及其他

暹羅國代表一行は全二日間博覽會を參觀した外五日間に亘つて臺灣各地に於ける有名な事業及大工場を見學した其重

なるものは

一、製糖工場、二、灌溉事業、三、水力電気、四、製材場、五、植物試験所、六、公園、ゴルフ場、及景勝地の順序で精く御話します。

一、或日一行は臺灣に於ける大製糖工場の一に數へらるゝ高雄廳ハイトーに在る製糖工場を見學した。同會社の資本金は五百萬圓一日の製糖能力は四百四十噸である。作業の順序は左の通り

工場を中心として二十五哩を半径とする圓内に會社の經營する甘蔗園あるも多くは大小地主の甘蔗園にして砂糖の市價に従ひ本工場に賣渡すこととなつて居る聞く所に依れば甘蔗の所有者は決して奸商に苦められ若は仲介人に手数料を支拂ふの要なく區域内には甘蔗運搬の爲め數條の輕便鐵道を敷設してあり運び來れる甘蔗は直に搾汁煮沸し濃厚液は機械に依つて赤砂糖に變じ或種の藥品を加へ又機械を経て純白の砂糖となり更に更に大小の粒となるのである。

臺灣に於ける製糖業は向二十年に完成する計畫であるから臺灣は東洋の砂糖市場を支配するのみならず世界市場征服を期して居る而して政府も又工場扶助方に依つて獎勵するのみならず此種製造工場が其の附近に勃興するを防衛し尙ほ關稅高壁を築て臺灣及日本に外國糖の侵入を許さざるが故に製糖會社の前途は洋々たるものと謂ふべきである。

二、灌溉事業は直接政府の經營する所にあらず單に補助金を與ふるに過ぎず、大灌溉場は農業の中心地たる臺南を距る約十五キロの山頂に大貯水池を設け各所に給水すること暹國水道に酷似してゐる灌溉事務所は給水料を徴收する權利あり尙ほ擴張の計畫を有すると云ふ。

三、水力電気は自然の瀑布を利用するにあらず海拔二千四百呎の高處に在る日月潭に工事を加へて長さ二百四十キロの大貯水池より直徑六米突の鐵管五本を通して之を落下せしむるのである。一管の水壓は僅に二萬キロワットの電氣を

起す機械を運轉するに足ると云ふ。

水力電氣は燃料其他費用の節減が出来るから従て電力は驚く可き廉價を以て供給され電燈料一ユニット約十士丁動力に使用する電力は一層廉價で更に引込線、メートル料を徴收せざるが故に電燈は田舎の隅々に至る迄使用されて居る。

五、臺灣に於ける植物試験所は數箇所あるが一行は臺南の植物試験所のみを見學した同試験所では無数の植物を栽培し學名と效用を略述し其の保護には多大の注意が拂はれて居る。種類は多くは東洋在來種で暹羅の植物は殆ど全部蒐收してある植物試験所は國民の生業を扶翼し且つ實物を以て植物に關する知識を得せしめんとする目的の爲めに設立されたものである希望者は休日の外何時でも入場を許さる。

六、公園は殆ど各縣に設けられ互に地方の美を護ひ且つ人民の散歩場たり丘陵あり池あり道路四通を散し勞を醫するに充分なる設備を有して居る。

ゴルフ場は山上にあり高雄廳の如きは海拔三千四百呎の山岳の自然を利用してあるから極めて壯麗である。

臺灣は山岳に富むが故に景勝の地亦多し連絡道路四通八達自動車に乗じて全一日を景勝地巡りに費すも決して厭くこととはない。

予の眼に映せる臺灣の感想を一括すれば

假令臺灣は日本の領有となりて四十年之人一代の短歲月に過ぎざるも臺灣を旅行したものは日本本土を旅行したると同様の感想を抱かざるはない、何となれば日本は本國との差別を設けず日本の現狀を臺灣に移殖したからである。言を換へて言へば日本は完全に臺灣を飲下消化したのである。

四十年前日本の臺灣領有當時の人口は二百五十萬人であつた。現在は其倍の五百萬人に増加した此増加率は本島人文

の増加率でなく日本人の定住する者少からざるを思はねばならない。日本人の定住する者多きに從ひ日本語の輸入を伴ひ一般に使用さるゝに至るは自然の勢で日本の殖民地統治上に一の便宜を與ふることとなつた。

教育及風儀に關しては日本は日本に行はれて居る通のものを基礎として本島人を教育し其結果は初等學校の學生より高等學校の學生に至る迄其の規律は極めて良好で老幼間の敬愛は親疎を選ばず、一般的風儀となつて居る。

日本人の行儀は世界中最も紳士的なりと云ふも過言でないであらう日本人は吾々に對し言語動作始終丁寧にして毫も嫌惡の情を生ぜしめない。

臺灣の治安は遺憾なく行はれ國民各其市民たる義務を盡し互に相親み争鬭を廻避し強竊盜の如きは殆ど稀である戸々門を鎖ざす物貰等は絶対にない。

衛生状態は非常に良好で町村は極度の保護を受け不潔物は全然見ることが出来ない。

要するに臺灣は農業及海産に異常の發達をしたのみではなくあらゆる點に於て文化の域に達して居る將來日本の發達進歩は何れの點迄達するかは別として日本人は臺灣を日本の一部として日本と比肩せしむるに努力するであらう。聽衆諸君若し諸君にして日本旅行の機會あらば臺灣に立寄ることを忘れてはならない暹羅に立寄らざる歐米人は暹羅あるを知らないけれども一旦暹羅を視察すれば暹羅も東洋に於ける文明國なりと感じ不思議に思ふと同様である。

最後に予は暹羅官憲及臺灣總督府の我博覽會視察團に對する多大の接護を感謝するものである。

## ○暹羅國在留邦人の狀況

在盤谷帝國總領事館に於ける昭和十年度十月現在の調査に基き同國在留邦人の概況を述べると次の通りとなる。

一、在留邦人の戸口數

當盤谷日本領事館の管轄區域は暹羅國全體に亘つて居る。在留邦人は内地人四百三十名と臺灣人八十九名、朝鮮人二名合計五百二十一名で戸數百七十戸である、而て其の八割強は首都盤谷に在住し地方在留者は僅かに二割弱である。過去三ヶ年に於ける戸口數左の通

内地人	盤谷		地方		總計
	昭和八年	昭和九年	昭和八年	昭和九年	
内地人	二七四	三一八	六六	七〇	二四〇
臺灣人	六五	六九	六	七	七二
朝鮮人	七一	七六	二	一	七八
計	四一七	四六九	七四	七八	一二二
總計	四一七	四六九	七四	七八	一二二

二、在留邦人の業態

在留邦人の主なる職業の態様は左記に示す様に盤谷では會社員、商店員を最多とし輸出入貿易商、醫務に關する業に従事するもの、官公吏、寫眞業、印刷業、理髮業、漁夫にして其他は各種の雜業に従事する者及家事被備人等である。又地方在留者は概ね醫師、齒科醫、賣藥、寫眞業及雜貨商を營んで居る。尙臺灣人は主に臺灣茶の輸入販賣を營み朝鮮人は朝鮮人參の行商に従事して居る。

在留邦人職業別表（盤谷在住の内地人本業者のみ）

職業別	人數	職業別	人數
官公吏	一〇	寫眞業	三
醫務に従事する者	一三	印刷業	三
會社員	二七	理髮業	三
商店員	二九	漁夫	五七
輸出入貿易商	一五	飲食店	六
暹羅政府傭聘者	八	其他各種雜業	二〇
		家事被備人	一六

三、在留邦人の現勢

盤谷在留邦商の有力なるものとしては三井物産會社支店、三菱商事會社出張所の外邦人、輸出入商約十店ある。右以外には諸種の工業、鑛業、農業、林業等に従事する有力者無く邦人金融機關は未だ開設せられざるも目下横濱正金銀行支店開設準備進行中である暹羅國政府に傭聘せらるゝものに從來より日本美術學校出身者二名及鐵道院に一名文部省に一

名あつたが昭和十年に入りて暹羅政府との契約に依る應聘者四名、(内務省二、文部省一、農務省一)出でたるは注意せらる可き出来事と言ふてよい。

在留邦商の主なるものは凡て盤谷市に在り、三井物産會社支店、三菱商會社出張所を始め個人經營の商店に山口、江畑、大谷、伊藤、溝上、川池、日華、中溝の各洋行がある。而て是等邦商は昭和六、七年に於ては深刻なる世界的な一般不況に崇られ加ふるに日支事變發生に因る同地華僑の日貨排斥運動に殃を受け其の取引頗る不振を極めたる處事變終了と共に漸次商況恢復し加ふるに對日爲替安の爲商況好轉して逐日活氣を呈するの實狀に在る。盤谷に於ける邦商の事業經營振は堅實にしてその活躍振り自覺しく日暹貿易の躍進、顯著のものがあり、邦品の同市場の輸入額は他國品を壓して其の一位となつて居る。

左に在盤谷邦商及其の營業種別等を掲記する。

店名	代表者	住所	取扱商品
三井物産支店	平野郡司	Hongkong Bank Lane	輸出入一般
三菱商會出張所	新田義實	Chartered Bank Lane	輸出入一般
伊藤洋行	伊藤太郎助	Jawaraj Road	輸入 絲布、綿織物、陶磁器、硝子、鐵器、藥品、一般雜貨
山口洋行	山口萬吉	Jawaraj Road	輸入 綿布、綿製品、陶磁器、硝子、鐵器、藥品、一般雜貨
大谷洋行	大谷長三	Sa-nam Namchuo	輸出 木材、ダマル、ゴム、棉、其他物産一般
伊藤忠洋行	大西徳信	2651 Rajawongs Road	輸入 綿布、毛織物、絹布

江畑洋行	本田寛次郎	New Road	輸出入 寫真材料、硝子、陶器、一般雜貨
南洋商行	古谷重治	723 Anuwongs Road	輸入 陶磁器、子磗、鐵器、化粧品、一般雜貨
細田貿易	武居芳郎	New Road	輸入 電氣器具一式
神戸海陸物産	大字平雄	Luang Road	輸入 海陸産食料品一式
溝上洋行	溝上政憲	New Road	輸入 食料品一般、印刷インク、日用雜貨化粧品
日高洋行	日高秋雄	2010 Kinher Lane, New Road.	輸入 一般雜貨
豊勝洋行	中溝勝治	2183-7 Uungarn Road, Lang wang Burapha.	輸入 一般雜貨
三和洋行	瓜生修一	Anuwongs Road	輸入 陶器、一般雜貨
日出藥房	鹽田厚	Samyod, Mahajai Road.	輸入 藥品一般、化粧品、醫療器具
東源洋行	張春木	Songward Road	輸入 一般雜貨、食料品 輸出 牛皮、其他

又我醫業方面に於ては小川醫學博士(内科) 神林醫學博士(外科、皮梅毒) 及有延醫師(外科) 太田醫師、江尻醫師(女醫)の外松尾、新野の齒科醫等が居り、醫術の未だ發達せざる暹羅國に於ては暹羅人支那人の我醫術に信頼する者多く他に二三の外國人醫師あるも治療費等の點より我邦醫師の診療を受くる者比較的なきもの様で従て邦人醫業者は逐日隆盛の狀況に在る。

在留邦人の唯一の公共團體として擧ぐべきものに暹羅國日本人會がある。大正二年九月一日の創立に係り其の事務所を盤谷市に設け地方在留邦人も會員として加入して居る。現在會員百二十名を算し居る。會の主たる事業として日本小學校を經營し、現在教員三名、生徒二十名ある。

右日本人會の外に邦商輸出入業者の意思の疎通と貿易上の利益を擁護し其の統制を圖る目的で昭和八年九月より暹羅實業協和會を組織した。該會會員は前掲各輸出入邦商で今や商事上の機關として發達せんとするの道程にある。

又昭和十一年に入りて在留邦人青年間に青年會の結成を見るに至つた會員六十名を算して居る。

x  
x  
x  
x  
x  
x

雜報欄

○暹羅國務院改造

國務院の改造に關しては不取敢二月會報に掲載して置いたが暹國政府は憲法第五〇條の規定に基き同月十五日人民代表議會に對し右改造後の新國務院に對する信任を問ひたる處左したる問題も無く信任決議の通過を見た國務院各參議の氏名は別表の通りである。

尙今回の改造は昨夏以來病氣療養中のビヤバホン總理の辭職説等と關聯種々の風説が行はれ居たが依然ビヤバホン總理として止り、司法、經濟、農務の各參議の病氣辭任、總理の大藏參議兼任解除並に内務參議ルアングブラディットの外務參議へ轉任等に依る關係の入れ換が行はれたるものでビヤバホン自身議會に於て政策方針に付ては從來通にして何等變更なき旨を言明して居る。右の内ルアングブラディットの外務參議新任は條約改訂期近づける今日特に各方面の注目を惹いて居る。即ち同氏が客年八月歐米視察旅行の途に上るや其の使命に關し當時種々取沙汰せられたが、其の外遊中の動靜に關する各種の情報を綜合するに遑回の外遊の重要な用務は先づ英國に於て高利の舊國債借替の商議を行ふ事に依り、暹國財政の對外信用、引いては革命政府全體に對する英、佛、米諸國の認識の程度を打診し以て今後條約改訂商議に關する開談の際の用意を作さんと試みるに在りたりと解せらる。且つ佛曆新年度に入ると共に米國を皮切りに各國との條約改正に於て完全なる司法並に關稅の自主權確立を目安として商議を開始すべしと傳へられて居り旁々外國

の事情に通ぜる法律家出身のプラディット氏を外務に据へたるものと看られて居る。

又今回の國務院改造に對する新聞等に表はれたる輿論の大體の傾向を見ると新參議中プラディット氏の外務轉任は前述の如き事情を以て最も適材を獲たるものとなし、ピヤチヨットの大藏新任は同氏の大藏省官吏並に會計検査院長としての永き經濟より觀て今後至難なる財政の衝に當りて充分期待に副ふもの有るべく、又チャオピヤ、マヒドンの司法參議新任は其の閱曆よりして極めて適任にして殊に高邁なる同氏の人格は司法權の獨立を完全に擁護するに力ある可く、次にプラポリバンが陸軍經理局長より經濟參議に昇りたるは國內産業の開發、促進が國防省の計畫に出る所多大なる現下の情勢に鑑み經濟國防兩省の連絡上便宜多かる可しとなし、更に農務參議となれるピヤルテは農務行政上の識見手腕は未知數なるも同氏が現國務院總理ピヤバホン一味と共に革命運動の有力なる指導者たりし關係上其の參議新任は國務院に對する一般の信任を重からしむる上に大なる力あり、國務院對人民代表議會との關係を圓滿ならしむるに效果あるべしと爲し、今回の改造が現政府の基礎を一層鞏固ならしめ政局の安定確保に役立ちたるものとの意嚮を示して居る。

### 新 國 務 院

總 理      Colonel Phya Phaholphiaphayaha Sena  
            (兼任大藏參議を解へ)  
大藏參議    Phya Jaiyos Sombati  
            (新任、官選議員、會計検査院長より轉出)  
司法參議    Chao Phya Mahithor

外務參議    Luang Pradit Manudharm  
            (新任、元皇帝附祕書官長、文官任用委員委員長より轉出)  
            (内務參議より轉補)

農務參議    Colonel Phya Riddhi Aganey  
            (新任、陸軍大佐、内務省警務局長より轉出、バホン總理と共に革命運動指導者の一人)

經濟參議    Colonel Phya Borihandh Yuddakich  
            (新任、陸軍大佐、國防省陸軍經理局長より轉出)

内務參議    Lt.-Commr. Luang Dhamrong Navasvasti, R. N.  
            (海軍少佐、内閣書記官長兼内務參議代理より昇進)

國防參議    Colonel Luang Pibul Songgram      (留任)  
文部參議    Captain Luang Sindhul Songgramjaya, R. N.      (留任)  
無任所參議    Khun Smanhar Hittakati

(留任、大藏省附)

Phya Sri Seua

(外務參議を辭し無任所として留任、内務省附)

Phya Samant Rathaburindr

(新任、南部ヌムール縣民選議員、會て無任所參議たりしことあり)

Luang Nath Nitthara

(留任、農務省附)

Lt.-Col. Luang Chamnan Yuthasilpa

(留任)

Luang Kovid Abhayawongs

(留任)

Phra Dulyudharn Prjayaidda

(留任)

Captain Phya Wicharn Chakrakich, R. N.

(留任)

Lt.-Commr. Luang Subhajasanya, R. N.

(留任)

Khun Sugondhavid Suktshakor

(留任)

Phya Surjanyuvalr

(留任)

Police Colonel Luang Adulyadej Charas

(留任)

(警視總監シヤヌムン、辭任と共に副總監より警視總監に昇格、昭和十一年二月)

Colonel Phya Abhai Songgram

(留任)

以上二十二名

退任者

司法參議 Phya Nitisastri Baitsal

經濟參議 Rear Admiral Phya Somayuth Seni, R. N.

農務參議 Phra Sarasasa Prabandh  
大藏省附無任所參議 Phya Mahai Svarya  
以上四名

### ○暹羅國大藏省顧問の任命

暹羅國政府は昨年退任した財政顧問英國人 Bacler 氏の後任として先般英國人 William Alfred Millner Doll 氏を大藏省顧問(従來の財政顧問は政府財政顧問の資格を有したり)に任命したが同氏は四月十九日盤谷着任した氏は年齢五十六才にして経歴左の通りである。

一、劍橋大學出身

一、一九二二—一九二四年間 N. M. Rothschild & Sons 系銀行に勤務(此の期間中一九一四—一九一九年間歐洲大

戰に出征)

一、一九二五年、ブルガリアに於ける聯合國委員會に對する英國全權補となる

一、一九二六—一九三〇年間、上記委員會英國全權となる(一九二六年及一九二九年の二回右委員會の委員長となる)

一、一九三〇—三三年間英國 Hazari Brothers & Co. の代表として伯刺西爾國バラナ州政府の顧問となる

一、一九三三—三四年、英國政府の特別委員として英國 Metropolitan Vickers Electric Co. 及伯刺西爾國政府間の

伯國鐵道電化工事に關する三百萬磅請負契約交渉仲介に當り之を成功せしめたり

### ○暹羅國の官營製紙工場設立

昭和十年四月中盤谷に於て設立登記を済したる暹羅製紙株式会社 (The Siam Paper Company, Ltd.) は昭和十年十二月に至り其のバルプ及紙製造工場建物の建設並に据附機械の購入に關し獨逸 (E. M. Voith Engineering Works) との間に契約成立し、同製紙會社と右獨逸商社の當地代理店たる (B. Grimm Co.) の間に同月十九日納入請負契約(價額約百萬銖)の調印を了したるが本工場据付の動力發電機械及電氣諸装置は Siemens Schuckert Werke 製を、電解機は Siemens and Halske A. G. 製を、又ボイラーは Borsig A. G. 製を夫々使用するに決したることである。

尙前記工場は盤谷市より西方約百二十基米のキャンブリー市に設立の豫定にして原料竹材を得る爲め既に同地方に國有原野廿四萬畝の拂下を受けたが購入の諸機械は一九三六年九月中に到來し約一ヶ年を以て建物造築並に据付工事を完了し紙及バルプの製造に着手する筈である。

會社發起人の發表したる事業目論見大要は左の通りである。

(イ) 工場の能力

据附機械の製紙能力は一日十噸にして一ヶ年平均約三、二〇三、〇〇〇基瓦の印刷用紙包裝用紙等を製造し得るものとす、他のバルプ製造機械も同じく一日十噸の製造能力を有す

(ロ) 需要市場の豫想

暹國に於て需要する印刷用紙其他の用紙類は殆んど全部之を外國より輸入し居る狀況にして税關統計に據れば最近三ヶ年間に於ける年平均輸入量は約四百八十萬基瓦にして此の價額は百萬銖を越し、佛曆二四七七年(一九三四—三五)

の如きは七百五十一萬基瓦百二十三萬銖の輸入を示して居る。

故に同工場の生産能力は國內需要の約五分の三を供給し得る豫想なるが外國品が従價三割五分の高關稅を負擔するに對し、同工場所在地は水運の便良く、且つ製紙原料たる竹の産出豊富にして加之中心市場の盤谷市に近距離のキャンブリー市に設立する關係上、生産費は一基瓦當り一八、八一仙(原料代、製造工賃及製品の盤谷市迄の運賃)の廉價なれば其他の諸経費及利益を合算しても猶一基瓦當り二十三仙即ち輸入品の市價より優に三仙方の下値を以て賣出し可能なるを以て外國品との競争上極めて好條件を具有す云々

尙參考迄に暹國に於ける最近二ヶ年間の印刷用紙輸入額を示せば左の通りである。

仕 出 國	佛 曆 二 四 七 六 年 (一九三三—三四年)		佛 曆 二 四 七 七 年 (一九三三—三四年)	
	數 量 (廷)	價 額 (銖)	數 量 (廷)	價 額 (銖)
澳 地 利	四四、九六二	七、六五八	四一、一四五	九、八八六
白 耳 義	一〇	二三	三、二九三	一、二五五
支 那	五五六、五一八	一一三、四四七	六八三、二六八	一三四、九六五
チ エ ッ コ			二、〇五五	六一二
丁 抹	一、一七八	五五三	一四、八六〇	三、三四四
エ ス ト ニ ア			一九、〇二二	四、二三〇
芬 蘭			二、一五四	二四七
臺 灣	九六	二四		

佛國	獨逸	香港	印度支那	佛領印度支那	伊太利	日本	和蘭	蘭領印度	那威	彼南威	新嘉坡	瑞典	瑞西	英國	米國	計
九、二二七	六八九、七二四	二〇八、〇二五			一、五八〇	一、三〇九、九七二	一九七、七三二	二	五三二、二二八	一〇二	九〇、七四八	一五五、〇二一	一〇	一七九、五五二	一、六〇五	三、九七八、四〇三
五、二四六	一三三、七一〇	七六、三七二			四七三	一九二、〇二〇	三三、二一八	二	七二、五四四	七八	一四、三六九	三六、二三一	四七	四八、三一三	一、四九七	七四五、八二五
二、六六〇	八七三、三七〇	二五六、三七三	三〇	一八	三、二七八、九八四	一七七、一七一	九	一、五六三、七〇八			二〇四、一四	一三四、七八一		二五四、〇八八	一八二	七、五一三、二八五
一、八九〇	一六一、五九二	八二、〇一四	一五〇	五	四八一、二一四	三五、五一〇	九	二〇五、八〇〇			三三、二二六	三一、三五〇		四九、〇一九	二三四	一、二三六、五五二

### ○暹羅國外債借替

暹羅政府では佛曆二四六年（一九二四年三月）倫敦に於てナンタル、プロビンシャル、バンク及チャクタード、バンク、オフ、インデア、オーストラリア、エンド、チャイナとの間に契約を爲したる六分利付三百萬磅外債がある右借替に關し過般來英國側と交渉中であつたが過般商議成立を見たる趣で去る一月十五日附右國債借替に關する緊急勅令を公布した。

右勅令に據ると本件國債は利子年六分償還期間四十ケ年にして借款契約成立後十ケ年を経るときは暹羅國政府は三ケ月の豫告を以て元金の銷却を爲すこととなり居たるものを大體左の如き條件を以て借替へたるものである。

- (イ) 借替を爲すべき國債元金は既に暹羅側が買上銷却をなしたる額を控除せる二百三十四萬三百磅とす。
- (ロ) 借替率は舊國債九十六磅に對し新國債額面價額百磅とす。
- (ハ) 新國債に對する利子は年四分とす。
- (ニ) 新國債の償還は佛曆二四八〇年（一九三七年）より抽籤を以て償還を開始し佛曆二五〇六年（一九六三年）六四年）を以て償還を了す。

(ホ) 佛曆二四八年（一九四三—四四年）以後に於ては暹羅國政府は三ケ月の豫告を以て新國債の銷却を爲すことを得

(ヘ) 新國債は舊債と同様現在及將來共何等課税せらるゝことなるべし。  
 尙右外債借替は客年八月以來歐米旅行後日本經由去る一月廿七日歸國した前内務參議ルアング、ブラヂット氏現外務參議倫敦滞在中行はれたるもので之に依り舊國債の償還完了迄の利子勘定に於て約千二百萬鎊の節約を行ひ得る趣にて暹

國一般輿論は之を以て同國政情の安定と共に財政上の信用が外國側に充分認識せられたる證左なりとてブラヂット參議の功績を稱讃するの態度を示して居る。

尙本件勅令は二月一日開會の特別議會に於て追認せられた。

## ○英國の對暹文化事業

英國に於て對外文化宣傳を目的として設立せられた英吉利國際協會 The British Council for Relations with other Countries は最近暹羅國に對しても文化事業主として英語文化宣傳に力を入るゝに至り先般盤谷チュラロンコン大學現代外國語部に對し英語教授用蓄音器レコード七十枚を寄贈したこと等もあつたが、今般本年度同大學卒業試驗に於て最も優秀なる英語成績を示したる學生二名を表彰するに決し、四月八日盤谷英國公使館に於て之が表彰式を行ひ賞狀並に賞品(書籍)を授與した。

尙右表彰式には暹羅側文部參議、外務參議其他文部省並にチュラロンコン大學關係高官も多數參列したが、同席上英國公使は今後も引續き同様の表彰を行ふのみならず中等學校(マタヨム科八年)卒業生中優秀なる英語學力を示したる者をも表彰し以て英語文化の普及に努力し度しとの意味を述べた由である。

## ○暹羅國政府油槽船の進水式

暹羅國政府注文に係る千八百五十噸の油槽船一隻は昨年三月より函館船渠株式會社で建造中であつたが工事進捗去る四月七日同所に於て暹羅國防省代表モムサニツト大佐を初め駐日暹羅造船監督官、暹羅公使館代表諸氏の外我が海軍外

務其他關係者多數列席の上盛大に進水式が行はれた。尙同船の竣工は本年八月頃の豫定である。

## ○暹羅國內務顧問

「サコール」殿下の來朝

暹羅國內務顧問サコール殿下は夫人令嬢御同伴日本觀光の爲め來朝。四月十一日入京せられた非公式の來朝として一切の歓迎を辭せられたが、御滯京中日暮里市營大葬場その他を見學せられた。當協會では一夕歌舞伎觀劇會を催し、殿下御一行を御案内した外日光へも御案内した。四月廿五日御退京歸暹せられた。因みに殿下は、暹羅國現外務顧問「ブリス・ヴァイデ」の御令弟に當らせらるゝ方である。

## ○暹羅國防省經理局長

モムサニツタオングセーニー大佐一行來朝

目下函館船渠會社に於て建造中の暹羅國油槽船の進水式に列席旁々我が國の軍事、産業其他方面視察の目的を以て暹羅國防省經理局長陸軍大佐、モムサニツタオングセーニー氏は隨員燃料課長ナイワニツトバンサナング化學研究所長ツアバラムグロム海軍大尉アオボンヒンクラチャング三氏と共に三井明石山丸にて神戸着四月十六日入京せられた。其の後函館に於ける進水式を了して歸京滯留五月五日退京關西方面を経て滿鮮視察に向はれた。一行滯京中の視察プログラムは大體左の通りであつた。

月 日	行	動	摘 要
四月 21 火	函館ヨリ飯京	三共製薬會社	陸軍次官主催午餐
22 水	陸軍經理學校	十條兵器製造所	海軍次官主催午餐
23 木	石油會社(三菱小倉關係)		外務次官主催午餐
24 金	西ヶ原農事試驗場	軍用鳩見學	
25 土	王子製紙會社	大日本人製肥料會社 千住製絨所	
26 日	科學博物館		
27 月	理化學研究所	川口燃料研究所	
28 火	靖國神社參拜糧秣廠	被服廠	
29 水	休	日	
30 木	東京計器製作所	芝浦製作所	

五月 1 金	第一衛戍病院軍醫學校	衛生材料廠	
2 土	三里塚育	馬所見學	三井晚餐
3 日	休	日	
4 月	生絲検査所	東京灣築港工事	
5 火	自動車學校		

○暹羅協會主催

訪暹經濟使節團送別晚餐會

當協會では二月二十一日午後七時貴族院議長官舎に於て安川雄之助氏を團長とする訪暹經濟使節團一行を主賓とし左記方々をも招待して使節團送別晚餐會を催した。席上近衛會長の懇篤なる送別の之辭に對し淺野副團長の答辭(安川團長所勞缺席)あり食後も主客懇談の上十時過ぎ終了した。(一、二、三)

訪暹經濟使節團送別晚餐會招待者名

- 團 長 安 川 雄 之 助
- 副 團 長 淺 野 良 三

海軍	參謀本部	陸軍省	商工省	拓務省	外務省	東亞局長
陸軍中佐員	陸軍第二部長	陸軍中將	貿易局長	次官	外務書記官	外務書記官
菅波一郎	岡村寧次	今井清	寺尾研壽	入江三平	笠原太郎	守島伍郎
						桑島主計

外務省	東京暹羅公使館	團員	團員	團員	團員	顧問	公使	前經濟參議	陸軍中佐	書記官	名譽領事	官補	次官	元暹羅公使	暹羅公使	通商局長
重光葵	林久治郎	矢田部保吉	來栖三郎	アルンウイチツトラ	倉田猛郎	ルアンラッタナラップ	ルアンウイラ	ブラミットラカム	ブラサラサット	岩田喜雄	友田久雄	永島雄治	元良信太郎			

子爵	岡部	近衛	横矢	富田	高島	依田	木村	高塚	大野	井上	保科	豊田	海軍中局長	海軍大佐	海軍少佐	海軍中佐	海軍大佐	南洋班長	軍令部	海軍中局長	海軍大佐
子爵	長	衛	重	亥	誠	信	増	忠	善	保	善	副	田	第一課	大	中	大	班	部	中	大
景	文	文	道	之	一	太	太	夫	隆	雄	四	武	將	佐	佐	佐	佐	長		將	長

子爵	三島	大倉	川田	高楠	鶴見	南條	藤山	矢田	山口
男爵	通	喜七	順	次郎	左吉	金雄	雷太	長之	武
子爵	陽	郎	順	郎	雄	雄	太	之	武

○暹羅に於ける我が經濟使節團

會報第二號既報の通り安川雄之助氏(暹羅協會々員)を團長とする訪暹經濟使節團は、去る三月十四日官民多數の盛なる見送りの裡に東京驛發西下、翌十五日午後門司發、三井盤谷直航船明石丸にて暹羅へ鹿島立したのであつた。船は一路平安、九日目の三月二十四日午前、早くも盤谷港三井棧橋に横付された。橋頭にはシャム政府よりの使節團接待委員長商務局長「ブラモンド」氏同委員「ルアンタピル」氏の外に、日暹協會々長「ビヤンリシチカン」氏暹羅佛青會長「ルアンチャウエンスリ」氏、暹羅並に支那商業會議所會頭、議員、暹、英、支、各新聞記者團、又日本人側では、森代理公使初め公使館員、陸海軍武官等在留邦人殆んど總出の出迎へがあり、一行は直に旅館「オリエンタルホテル」に

入った。

團は着遅早々左記譯の様な聲明書を發表して、訪暹、其の意のある點を明にして置く所あつたが、廿四日は一日休養し、翌二十五日より大體別記「プログラム」の通りに行動。滞在三週餘日の間使節團としての使命の遂行に當つた。

「この非公式使節は日本商工會議所により親善増進の爲め派遣されたもので、同會議所は兩國國民の密接なる經濟上の協力を希望してゐる。

日暹兩國間の修好は決して最近の事ではなく、往時より交易が行はれ、吾人の祖先中にはアヌチア一王朝の爲に奮戦した者があつた。故に吾人は特に親愛の情を禁じ得ない。又宗教、人種等數多の共通點あることを思ふと、日暹兩國間の友誼は努力によつて醸成されたものでなく、寧ろ自然に發展したものである筈である。

最近貴國の要人達が、日本の真相を理解する爲め、公式及び非公式に日本を來訪され、親善關係が増進強化されたのは欣快とする所である。挨拶に當り先づ貴國の好意を感謝したい。

兩國間の貿易量が従來年を逐うて増進したのは欣快である。然し強健なる基礎に基く貿易を増進するには日本品の輸出高の増大に努力するばかりでなく、貴國より買入れ得る物産を研究し、出來得る限り之が輸入に努める必要がある。吾人の熱望する所は兩國の經濟的協調を鞏化し、以て相互の福利を増進するにある。

吾人の來訪は云ふ迄もなく政治的意義を有するものではない。吾人は上記の信念を格守し、貴國の指導者諸士と隔意なき意見を交換し、諸般の事情を知悉し、暹羅並に暹民諸君を完全に理解するを得ば幸である。

惟ふにシヤム國の如き、政治と云はず社交と云はず文化、經濟、産業其他諸般の機構が主として政府を中心として動いて居る國柄にあつては、團が其使命を果たす上に於て、官邊要路者と面接腹臆無き意見の交換を爲すは最も必要且有

力と認められしに依り、一行は此の點に付き大いに努力する所があつた。

乃ち、國務總理初め、内務、外務、國防、經濟、農務、各參議、人民代表會議議長其他要人とも數次會見、親しく懇談を重ね、彼我得るところ不勦ものがあつた。三月廿八日攝政宮殿下は特に一行に拜謁を賜り、使節團遙々の訪暹を満足に思召され、且色々と打解けたる御物語もあり、團員一同大に面目を施す所があつた。扱て、シヤム政府は、今次の一行接待の爲に經濟省内に委員を設けて諸事の斡旋に任じ、又團の地方旅行に際しては、鐵道局は特に寢臺車と食堂車を連結したる専用車を提供、自由に使用せしめ、各地方官憲亦た出來得る限りの好意を一行に寄せ、少しにても熱帯地方旅行の苦を慰めんと努められたのは、一同の深謝措く能はざる所であつた。

首府盤谷でも又地方でも、屢々昨年訪日のシヤム議員團や官吏團軍人連中に面會、而して彼等孰れもより滯日中に享けたる我が國民の好意に對する感謝も追想の話聞くのは是又一同の最も愉快とした點であつた。

通商、産業方面の事項に就ては、暹羅商業會議所、在暹華僑商務公所首腦部と數回會談、日暹間の恒久的通商振興方策に付、種々意見の交換を行ふと同時に、又シヤム現在の主なる企業としての精米所、製材所、ビール會社、セメント會社等の工場をも分擔視察した。目下、日暹兩國民より多大の期待をかけられて居る三原農學博士指導のシヤム政府棉作地現場は、盤谷より約四百八十基米北の僻地に在るも、一行は折柄四月の最炎熱時なるにも不屈、打掃ふて之が實地視察を終へたのであつた。

攝政宮殿下を名譽總裁に頂き會員約二百名を有するシヤム日暹協會は、今次の使節團一行の來訪を衷心欣び熱誠なる歓迎を爲した。現會長の「ピヤシリシチカン」氏は、昭和九年夏、シヤム國産業視察團々長として渡日、親しく我が國情を知つて居る人であり、目下鐵道局技監の職に在り同國鐵道技術界の權威者である協會は一日歓迎午餐會を催し有

力なるシヤム人士を一行に紹介せられ其後更に送別茶話會を催し席上使節團々員及顧問計八名を同會名譽會員に推薦した。シヤム佛教青年會亦た歡迎會を開催、會長は一昨年日本商工會議所の招請による同會々員の日本訪問に對する鄭重なる感謝の辭を述べたのであつた。而して餘興には佛青少年少女部員(全部シヤム人)の日本語劇等上演して一同の旅情を慰めて呉れた。四月六日のシヤム赤十字デーには、團員一同大會に招待せられて出席、總裁皇太后宮に拜謁を賜り安川團長は同社の終身特別會員に推薦された。凡そ之等の公私幾多の會合に於て團一行はシヤム朝野の有力人士と出來得る丈け接觸、胸襟を開いて懇談し、東亞の友邦日本より暹羅への親善使節としての使命を果さん事を期した。

シヤム在留邦人官民諸氏が使節團に寄せられたる好意と熱誠に對しては一同心より満足且感謝した。滞在中、邦人發展の原動力となつて居るところの日本人會、實業協和會、日本人小學校共同墓地をも夫々訪問した。

訪暹經濟使節團は、四月十八日盤谷に於て一と先解團、其後團員は各自單獨行動を採ることゝなつた。安川團長は二十日盤谷發飛行機便に依る瓜哇旅行を爲したる後、二十九日盤谷發の三井乾隆丸で歸朝の豫定、淺野副團長は十八日盤谷發新嘉坡經由船便にて歸朝せられた。

使節團より左記團體へ頭書の通りの寄附があつた。

邦貨二萬三千圓 在盤谷日暹協會

(内一萬三千圓は山田長政建碑資金として)

邦貨一千圓 暹羅赤十字社

邦貨五百圓 在盤谷暹羅佛教青年會

邦貨三百圓 在チェンマイ市 癩病院

運貨百五十銖

在盤谷暹羅公立少年授産學校

(五、七、山口認む)

### 日暹經濟使節團滞在中日程表

日附時間	行 事	備 考
三月廿四日(火)	盤谷到着	三井明石山丸 オリエンタルホテル投宿
九、〇〇		日程實行打合
一六、二〇	日本公使館訪問	名刺、議會正副議長
廿五日(水)		
九、三〇	署名、王宮、攝政邸、國務總理	
一、〇〇	名刺、暹、支、國際、各商業會議所	
一四、〇〇	經濟參議會見	
一四、二〇	外務參議會見	
一五、〇〇	農務參議會見	
一五、三〇	內務參議會見	
一七、三〇	公使館レセプション	公使官邸
廿六日(木)		

一〇、〇〇  
一六、〇〇  
一九、三〇  
廿七日(金)  
一〇、〇〇  
一一、〇〇  
一五、〇〇  
二〇、〇〇  
廿八日(土)  
一〇、〇〇  
一〇、三〇  
一二、三〇  
廿九日(日)  
一四、〇〇  
二〇、〇〇  
三十日(月)

在留邦人代表會見

(三原博士、伊藤教授、東技師等講演あり)

日運協會長、ピヤスリチカン訪問

日本人會晚餐會

日本人俱樂部

日本公使館

見物——王城、ワットブラケオ、  
博物館、ワットチエトボン

實業協和會訪問

見物——スロインホール、クジウツト學校、  
白象、ワットベンチャマ

新聞記者會見ノ爲晚餐會

使節團主催、オリエンタルホテル

攝政宮拜謁

見學——バスツール、インスチチュート、  
チュラロンコン病院

日運協會午餐會

ラチャタニホテル

休息

中堂海軍武官招宴

支那商務總會晚餐會

海天樓

一〇、〇〇  
一九、三〇  
卅一日(火)  
九、三〇

訪問、シリラチャ病院、チュラロンコン大學

日本人實業協和會晚餐會

海天樓

麥酒工場視察(パンサー)

暹羅商議代表會見

ピヤピロム招待

一一、〇〇

ラムサム製材所視察

同上所

一二、〇〇

午餐會

ナイチュリン案内

一四、〇〇

ナイマー、精米所視察

同右招待

二〇、〇〇

暹羅商議晚餐會

パンバコンナイマー案内

(後暹羅映畫觀賞)

ラチャタニホテル

四月一日(水)

暹羅新年、年賀

チャルルクルング

一〇、〇〇

署名、王城、攝政

名刺、各參議正副議長

一九、三〇

三井晚餐會

二日(木)より四日(土)迄アンコールワット往復旅行

五日(日)

二〇、〇〇

三菱晚餐會

六日(月)

九、三〇

國務總理會見

一、〇〇

議會議長會見

一六、〇〇

赤十字デーへ招待

一九、三〇

日本代理公使晚餐會

七日(火)

一〇、〇〇

經濟參議會見

一三、三〇

商務局商品陳列館視察

一九、三〇

經濟參議晚餐會

八日(水)

一〇、〇〇

工藝學校視察

一四、〇〇

農務參議會見

一八、〇〇

盤谷驛發

九日(木)

ヨリ十三日(月)迄チエングマイ、ランバン、ソワンカローク、ソコタイ、ピサノローク往復旅行

十四日(火)

一九、〇〇

使節團主催在留日本人招待晚餐會

十五日(水)

サラシロム苑

一六、三〇

佛教青年會茶會

二〇、〇〇

守屋陸軍武官晚餐會

十六日(木)

一〇、〇〇

外務參議會見

一〇、〇〇

ワットサケット參拜

一一、〇〇

日本人小學校視察

一一、三〇

ピサル、パーニツチ商會午餐會

二一、〇〇

日本ノ夕(日選協會主催)ミスカワン苑内劇場

十七日(金)

一〇、〇〇

セメント工場視察

一一、〇〇

セメント會社午餐會

二〇、〇〇

使節團主催留別晚餐會

十八日(土)

一三、〇〇

外務參議午餐會

解 團 (備考、此の外に多數の私的會談、非公式招宴あり)

九〇

サラシロム苑

公使館

經濟省

チエングマイ市ニ向フ

ソコタイ、ピサノローク往復旅行

サラシロム苑

チエスパーセン支配人案内

オリエンタルホテル

外務省

九一

## ○神戸日暹協會の設立

神戸に於ける日暹協會の設立は、豫てより同地方各方面の有力者間に於て計畫されて居つたが、近時の兩國親善の増進と貿易發展に促され、同地在住暹羅名譽領事榎並充造氏等の斡旋に依り具體化し、去る三月二十七日神戸商工會議所に於てその發會式が舉行された。出席者は兵庫縣知事、神戸市長、神戸商工會議所會頭、神戸税關長を初め、在神有力銀行會社代表者の外東京より特に暹羅公使ブラミトラカムラクシヤ氏、暹羅協會矢田常務理事も出席。會則を決定した後、左記諸氏が役員に就任せられた。目下會員約七十名のことである。

我が暹羅協會と同一の目的を以て曩には名古屋日暹協會の設立あり、今又神戸日暹協會の設立を見るのは機運の熟したる結果とは云へ、吾人の衷心より欣幸とする所で、今後相共に手を携へて日暹兩國の親善増進文化の發達に寄與したいものである。

## 神戸日暹協會役員

會長 岡崎 忠雄 (神戸商工會議所會頭)  
副會長 秋山 斧助 (神戸商工會議所副會頭)  
同 林 莊太郎 (株式會社兼松商店取締役)  
株式會社阪神鐵工所  
幹事 加藤 源次 (神戸輸出絹物同業組合組長)

株式會社川崎造船所

大阪商船株式會社神戸支店

柳原 恒彦 (日本莫大小輸出組合理事長)

柳田美津造 (柳田伊藤商會代表者)

福本 義亮 (神戸商工會議所理事)

株式會社神戸製鋼所

佐藤 徳十郎 (合資會社福大洋行代表者)

佐々木 種三郎 (神戸海陸産物輸出組合理事長)

三井物産株式會社神戸支店

三菱重工業株式會社神戸造船所

宮崎 彦一郎 (大同貿易株式會社專務取締役)

柴田 楠三 (株式會社神戸電機製作所常務取締役)

## ○暹羅國政府派遣留學生の着京

日本留學暹羅男女學生の数は最近頗る増加して來たが、去る三月三十一日には同國政府派遣の男子留學生十一名が着京した。一同は最初日本語を學修右終つて夫れ々専攻科目の研究に従事することゝなつて居る。當協會の斡旋に依り淀橋區西大久保國際學友會館に止宿して居る。氏名等次の通りである。

氏名

所屬

九四

專攻科目

チャムラス・マングカナンダ	内務省	警察行政
ブラチャブ・リルチブトラ	同	同
バンチョン・ブーンヤブラソフ	同	同
ブーンケーラムチエジス	文部省	同
チヨエ・ミスリソム	同	同
バンチョン・リムリワブライク	文部省	同
ダムチーン・アパニシユ	同	同
チャルン・リーレルトラクサナ	同	同
ソン・チャイ・サリカヴァニヤ	同	同
ワリーヴンスヴェイ	同	同
ブラスイデイ・ニライヤン	内務省	政治學・市制

### ○名古屋日暹協會招致の暹羅學生來名

名古屋日暹協會招致の第一回留日學生左記三名は二月十三日大阪商船スラバヤ丸にて無事神戸着同會三上理事の出迎を受け大阪に一泊翌十四日名古屋着直ちに宿舍たる名古屋市揚輝荘に入った。目下折角日本語勉學中との事である。因に同地には右三名の外に暹羅男學生二名滞在勉學して居る。

Nai Snoi Sarasaya  
 Nai Chamong Phahurat  
 Nai Urai Songram

### ○國際藝術禮讚會主催の「日暹親善の集ひ」

五月十一日午後一時より、國際藝術禮讚會主催「日暹親善の集ひ」が、日本橋白木屋七階ホールに於て開かれたが、來會者八百餘名非常の盛會であつた。司會者同會主事花村紗子氏の開會の辭に始り、續いて暹羅風景映畫、釋迦降誕讚歌の四部合唱、東京マヂンヤンクラブ諸氏の奇術、日本舞踊、暹羅古典音樂の演奏等あり、東京留學中の暹羅學生數名も暹羅スポーツ「タクロー」の妙技を演じて喝采を博した。當日は暹羅公使プラミトラカムラクンヤ氏所要缺席の爲當會矢田常務代つて挨拶を述べた。

### ○協會理事會其他

二月十七日(月)霞山會館に於て本會理事會を開催左の議事に付報告又は協議をなした。

- 一、新會員氏名報告の件
- 一、昭和十年度收支決算報告に關する件
- 一、右決算剩餘金を昭和十一年度經常費中に編入することを評議員會に提出するの件
- 一、本會寄附行爲中變更を評議員會に提出するの件

二月十七日(月)霞山會館に於て本會評議員會を開催左の議事に付報告又は協議をなした。

九六

- 一、昭和十年度收支決算報告に關する件
- 一、右決算剩餘金を昭和十一年度經常費中に編入に關する件
- 一、本會寄附行為中變更に關する件

### ○會員訃報

通常會員子爵相馬孟胤氏は去る二月十三日長逝せられた。厚く御悔み申上る次第である。

### ○會員其他の動靜

- 一、矢田部保吉氏 二月六日賜暇歸朝せられ目下病氣靜養中漸次快方にむかはるゝ由、宿所左の通り
- 一、三原新三氏 五月中旬暹羅より一時歸國六月下旬再び渡暹せらるゝ由。
- 一、在暹天田六郎氏、東森藏氏、稻桓茂樹氏、大山周三氏は暹羅に於て孰れも壯健、勤務し居られる。
- 一、安川雄之助氏 訪暹使節使命を無事終了五月十四日歸京せられた。
- 一、山口武氏 同しく五月九日歸京せられた。

### ○本協會新入會員

其後本協會新入會員左の通り

- 中川省 吾君(日瑞貿易船舶部支配人)
- 大田黒靜生君(芝浦製作所取締役)
- 龜井信次郎君(貿易商〓輸出絹物商)
- 有吉忠一君(横濱商工會議所會頭)
- 土田新太郎君(三菱商事株式會社横濱支店長)
- 山野井 弘君(大阪商船株式會社横濱支店長)
- 上甲 信 弘君(横濱貿易協會々頭)
- 小岩井建治君(社團法人大日本製乳協會主事)
- 岩田 喜 雄君(スマトラ興業株式會社常務取締役)
- 小城徳太郎君
- 金鞍一 榮君(日本郵船株式會社横濱支店長)

九七



日本—盤谷航路定期出帆表 (昭和十一年上半期)

三井物産船部

大阪商船會社

船名	三井物産船部		大阪商船會社		船名									
	横濱	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名	漢名
朝日丸	六三	六四	六六	六八	六〇	六九	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸
朝日丸	六三	六三	六三	六三	六三	六三	明	光	丸	丸	丸	丸	丸	丸

〔非賣品〕

昭和十一年六月二十四日 印刷納本  
昭和十一年六月二十七日 發行

東京市麴町區三年町一番地  
發行所 財團 暹羅協會  
電話銀座二六五六番  
振替口座東京一四八三一番

編輯兼 山口 武

印刷人 東京市目黒區上目黒三千六百二十四番地  
永島喜代次郎

印刷所 東京市淀橋區戸塚町一丁目二百二十番地  
明立印刷株式會社

